

平成 29 年度事業報告書



社会福祉法人 京丹波町社会福祉協議会

平成29年度事業報告

I 総 括

平成29年度、本町では大きな災害はなかったものの、九州北部豪雨や福井県での大雪など、自然災害により住民の尊い命や財産を奪う被害が全国で発生しました。

京丹波町社会福祉協議会では、万が一このような災害が本町で発生した場合、被災された方々が一刻でも早く日常生活を取り戻していただくよう、災害ボランティアセンターを設置し運営する役割を担っています。

本年度は日本赤十字社第4ブロック（近畿ブロック）の訓練が京都府立丹波自然運動公園で開催されたことから、地元の社会福祉協議会として災害ボランティアセンター設置訓練に参加しました。本会は、幸いにもこれまで災害ボランティアセンターを立ち上げるほどの大きな災害は無かったため、この訓練をとおして実際のボランティアセンター運営を経験できたことは大変意義深いものとなりました。

また、本町の日常生活に目を向けると、高齢化率が40.95%（H30.3月末）となり、過疎に伴う人口減少や家族形態の縮小から様々な生活課題が深刻化しています。

そのような中で、本年度は新たに認知症専門相談窓口設置事業を町より受託し、認知症地域支援推進員を配置して様々な機関と連携し、認知症の方が初期段階から終末期にかけて本人や家族への支援を切れ間なく行うと共に、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる活動を行いました。

さらに、全国的に子どもの貧困という問題が注目される昨今、本町においても児童・生徒数が減少傾向にある中で、要保護児童・準要保護児童の数は微増しております。町内の小学校や中学校へ調査を行い、就学援助率の高さや文化的経験の浅さ、両親の働き方の変容から子どもと向き合う時間の無さなど、子どもを取り巻く環境は決して良いとはいいきれない課題も見えてきました。このような現状を踏まえて、来年度に向けて子どもたちにいろんな体験やこころの成長、相談できる関係づくりができるような活動につなげていきたいと考えております。

これまでから取り組んでいる、高齢者・障がい者・児童等のあらゆる分野への支援事業を、町行政の支援はもちろんのこと、地域の住民の方々、あらゆる関係機関にもご協力・ご参加いただきながら地域の福祉力向上に向けた活動も展開しました。

最後に、本年度通所介護事業所で送迎中に起こした事故については、ご利用者さまに多大なご苦痛とご迷惑を与えてしまい、今なお入院中の方、治療中の方もあなかで、ご家族の皆様にもご負担とご心配をおかけしましたことに心よりお詫び申し上げます。今後、このようなことを二度と起こさぬよう、本会全体で業務を見直し、ご利用者さまに安全で安心なサービスの提供が行えるよう、より一層取り組みを進めてまいりたいと考えております。

II 社会福祉協議会運営基盤の強化

1 会員増強運動

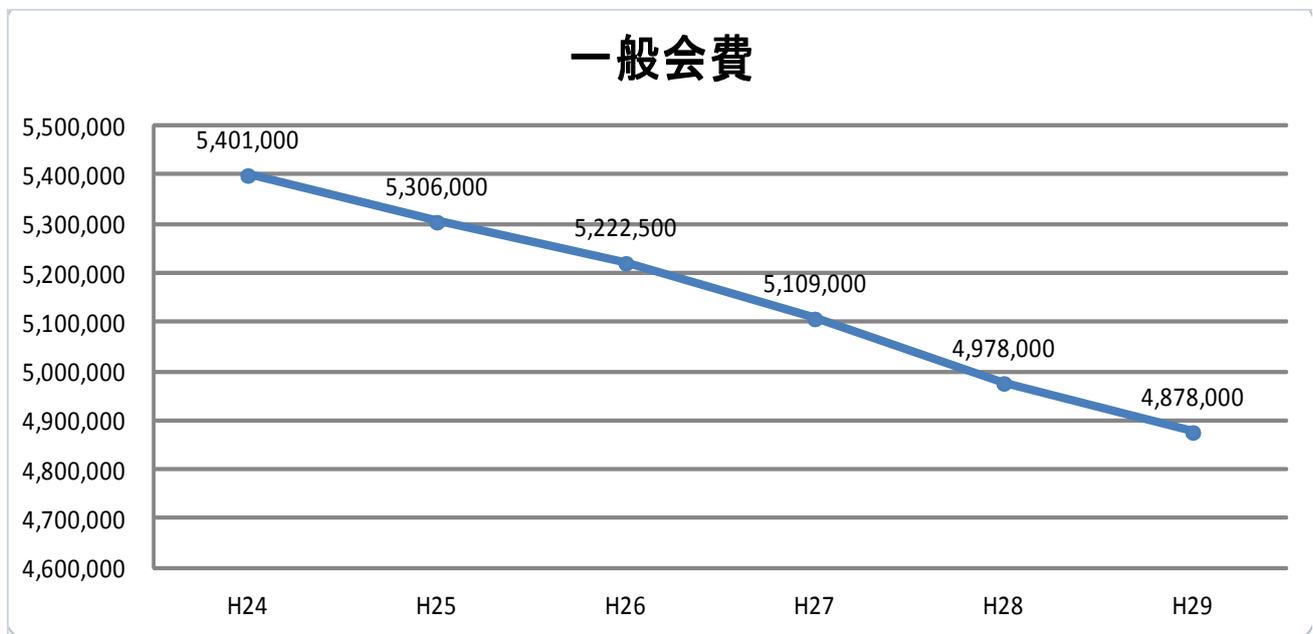
●会員増強運動

会員種別	丹波	瑞穂	和知	町外	合計	備考
一般会員	1,898,000	1,611,000	1,369,000	0	4,878,000	成人者：1,000円
特別会員	25,000	190,000	20,000	40,000	235,000	会社・事業所等：5,000円
賛助会員	42,000	0	6,000	0	48,000	福祉施設・団体等：3,000円

一般会費地区ごとの内訳

		H24	H25	H26	H27	H28	H29
丹波	会費	2,129,000	2,101,000	2,032,000	1,997,000	1,940,000	1,898,000
	成人数	6,689	6,580	6,452	6,352	6,269	6,165
	加入率	31.8%	31.9%	31.5%	31.4%	30.9%	30.8%
瑞穂	会費	1,724,000	1,697,000	1,719,000	1,681,000	1,632,000	1,611,000
	成人数	4,025	3,979	3,914	3,850	3,793	3,702
	加入率	42.8%	42.6%	43.9%	43.7%	43.0%	43.5%
和知	会費	1,548,000	1,508,000	1,471,500	1,431,000	1,406,000	1,369,000
	成人数	2,980	2,918	2,842	2,771	2,705	2,660
	加入率	51.9%	51.7%	51.8%	51.6%	52.0%	51.5%
全域	会費	5,401,000	5,306,000	5,222,500	5,109,000	4,978,000	4,878,000
	成人数	13,694	13,477	13,208	12,973	12,767	12,527
	加入率	39.4%	39.4%	39.5%	39.4%	39.0%	38.9%

※一般会費の推移（単位：円）



【成果・課題】

- ・人口の減少に伴い、一般会員も減少傾向にある。その中で、今年度は特別会員として町内の1事業所、町外の2事業所に新規加入いただいた。今後も一般会員の新規加入とともに、特別会員・賛助会員についても、これまで以上に会員増強を図っていきたい。

2 法人運営

●会 務

(1) 理事・監事会・・・7回

開催年月日	協 議 内 容
H29. 4. 21	定款変更に伴う規程の改正、社協理事委員会等委員の割り当て、他
H29. 5. 29	社協評議員候補者の承認、28年度事業報告・収支決算、役員等費用弁償に関する規程、第1回評議員会開催、他
H29. 6. 13	社協正副会長の選任
H29. 6. 21	評議員選任・解任委員会報告、28年度事業報告・収支決算修正、社協会長職務執行状況報告、介護休暇制度導入に伴う就業規則の変更、他
H29. 10. 5	デイサービス送迎時の事故、デイサービス浴槽購入、社協会長職務執行状況報告、特定相談支援事業所開設に向けて、正規職員採用報告、他
H29. 12. 1	29年度上半期事業及び資金収支執行状況の確認、特定相談支援事業所開設に伴う定款変更、第2回評議員会開催、他
H30. 3. 5	福祉まつり 2017 報告、29年度補正予算、監事の推薦、30年度事業計画・収支予算、各種規程の変更、第3回評議員会開催、他

(2) 監査会・・・2回

開催年月日	協 議 内 容
H29. 5. 23	28年度事業及び収支決算についての監査
H29. 11. 24	29年度上半期事業及び資金収支執行状況についての監査

(3) 評議員会・・・3回

開催年月日	協 議 内 容
H29. 6. 13	理事・監事の承認、28年度事業報告・収支決算、役員及び評議員・委員の報酬及び費用弁償に関する規程の承認
H29. 12. 19	デイサービス送迎時の事故とデイサービス浴槽購入の報告、29年度上半期事業及び資金収支執行状況、特定相談支援事業所開設に伴う定款変更の承認
H30. 3. 26	H29年度補正予算の承認、監事の承認、H30年度事業計画及び収支予算の承認

(4) 三役・管理職会議・・・9回

開催年月日	協 議 内 容
H29. 4. 25	今後の日程確認、事業報告・決算事務の連絡、福祉まつり、他
H29. 5. 19	28年度事業報告・収支決算、役員及び評議員・委員の報酬及び費用弁償に関する規程の変更、福祉まつり、他
H29. 6. 19	事業報告・収支決算の修正、介護休暇制度導入に伴う就業規則の変更、来年度体制に向けて、他
H29. 7. 19	来年度体制に向けて、障害者相談支援事業所開設、他
H29. 8. 29	デイサービス職員募集と浴槽改修、障害者相談支援事業所開設、監事選任に向けて、理事会の調整、他
H29. 9. 20	職員採用試験の結果、特定相談支援事業所開設に向けて、理事会の確認、他
H29. 11. 10	デイサービス送迎時事故報告、デイサービス浴槽購入入札、福祉まつり 2017、他

H29. 11. 29	H29 上半期事業並びに資金収支執行状況の確認、デイサービス送迎時事故報告、デイサービス浴槽購入入札、福祉まつり 2017、特定相談支援事業所開設に向けて、他
H30. 2. 7	公平委員会の結果、来年度の職員体制について

(5) 各種運営委員会

委員会名	丹波	瑞穂	和知	合計
心配ごと相談所運営委員会		1		1
福祉資金貸付委員会	1	1	1	3
ボランティアバンク運営委員会		1		1
共同募金配分検討委員会		4		4
理事・監事推薦委員会		1		1
評議員選任・解任委員会		2		2
公平委員会		1		1

(6) 管理職（課長）会議・・・11回

開催年月日	協議内容
H29. 4. 17	時間外労働申請について、各職員へのヒアリング、職員内部研修、障害者相談支援事業開設に向けて、予算確認、各課からの報告、他
H29. 5. 16	時間外労働申請様式、職員内部研修、監査、各課からの報告、他
H29. 6. 14	職員体制について、作業所機能検討部会、障害者相談支援事業所開設、各課からの報告、他
H29. 7. 12	職員体制について、障害者相談支援事業所開設、各課からの報告、他
H29. 8. 23	職員体制について、最低賃金引上げ、障害者相談支援事業所開設、京都府社会福祉大会、各課からの報告、他
H29. 9. 13	職員体制について、最低賃金引上げ、理事会、各課からの報告、他
H29. 10. 13	デイサービス送迎時事故、上半期事業報告、業務振り返りシート、採用内定について、各課からの報告、他
H29. 12. 25	業務振り返りシート、職員交通安全研修、各課からの報告、他
H30. 1. 17	時間外集計方法、地域福祉活動実践交流会、職員交通安全研修、各課からの報告、他
H30. 2. 14	公平委員会、職員体制、変形労働時間制、就業規則の変更、各課からの報告、他
H30. 3. 13	職員体制、就業規則変更に係る職員代表の意見書、研修計画、各課からの報告、他

(7) 職員内部研修・・・11回

日時	講師	内容
H29. 4. 6	辻 智典氏	チームビルディング ・チームが機能するために必要なことを学ぶ ・職場のチーム力向上と職場内コミュニケーションの活性化を図る
H29. 5. 11	辻 智典氏	コミュニケーション ・コミュニケーションの基本を理解する ・自己覚知を実現する。
H29. 6. 8	豊田直子氏	メンタルヘルス ・自分のストレスを知り、適切な対処法を学び実践する方法を学ぶ

		<ul style="list-style-type: none"> ・パーソナリティ理論を学び、ストレスのセルフコントロールに活用する。
H29. 7. 6	辻 智典氏	気付き・報告・連絡・相談 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な気付きと対応を学習する。 ・適切な報告・連絡・相談を理解する。
H29. 9. 7	岡本匡弘氏	記録の書き方・残し方 <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい記録をかくことで情報を的確に伝える。 ・他職種との連携を図り、サービス向上へとつなげるための視点を学ぶ。
H29. 10. 12	辻 智典氏	認知症の基本理解とコミュニケーション対応【Ⅰ】 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人を取り巻く状況を理解する。 ・認知症の原因疾患を学習する。 ・中核症状と周辺症状を学ぶ。
H29. 11. 9	村上由佳氏	生活支援技術（ボディメカニクス・移乗・移動） <ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスを理解する。 ・移乗・移動方法の基本を学習する。
H30. 1. 11	辻 智典氏	職業倫理（権利擁護と高齢者虐待） <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止法を理解する。 ・事例検討を通じて虐待予防や権利擁護について学習する。
H29. 9. 7	辻 智典氏	認知症の症状の理解と対応の仕方【Ⅱ】 <ul style="list-style-type: none"> ・中核症状へのアプローチを学ぶ。 ・パーソンセンタードケア・認知症の倫理・理念を学習する。
H29. 9. 7	辻 智典氏	リスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの基礎を理解する。 ・組織内におけるリスクマネジメントの構築を実現する。
H30. 1. 18 H30. 2. 1 H30. 2. 2 H30. 2. 5	南丹警察 山根良樹 警部補	交通安全教室 <ul style="list-style-type: none"> ・全国と京都府下の交通事故の状況 ・危険予測と夜間の運転 ・人の判断基準

【成果】

- ・職員の資質向上を目指して、介護労働安定センター（京都市）から講師を派遣いただき10回の職員内部研修を実施し、正職員・嘱託職員を対象に取組んだ。
- ・サービス提供中に事故を発生したことから、再発防止に向け本会全職員を対象に南丹警察署交通課交通指導係長にご指導いただき、交通安全教室を実施した。



職員内部研修



全職員対象交通安全教室

【在宅福祉推進事業】

1 福祉サービス利用援助事業

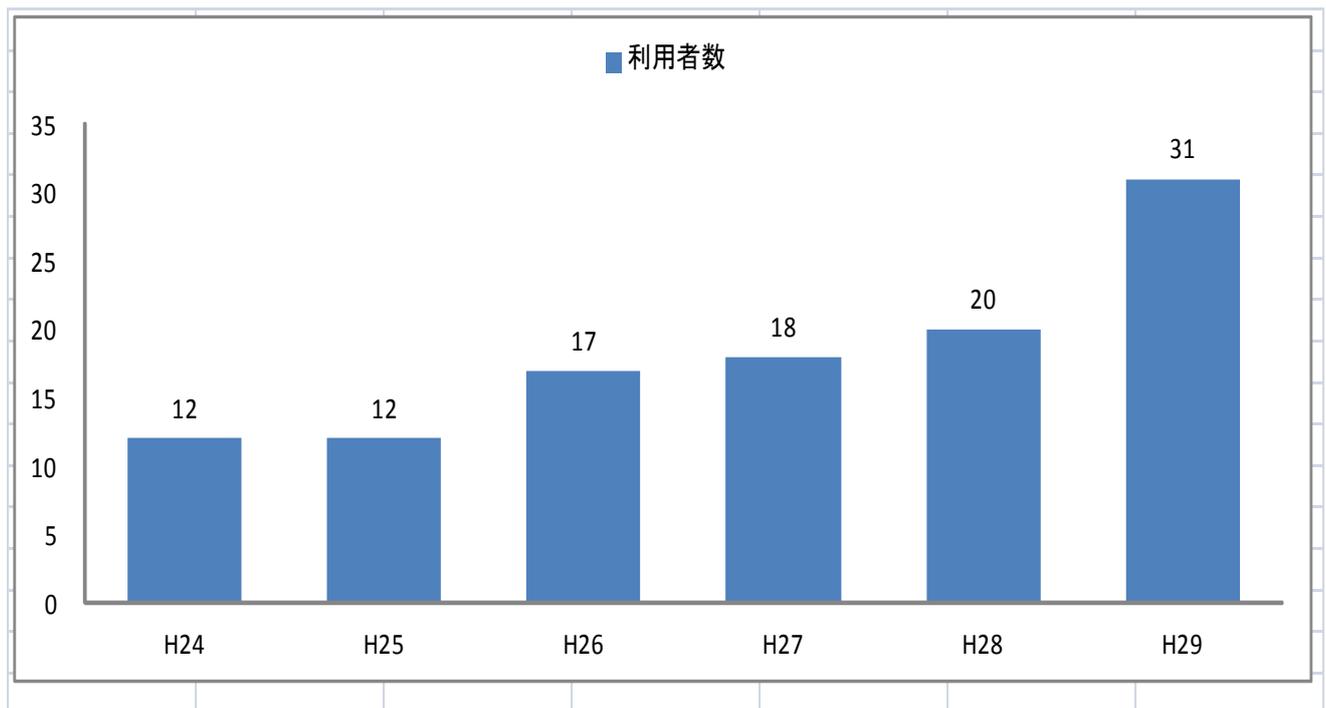
■契約・支援等の件数・・・平成30年3月31日現在

	28年度末契約件数					解約件数	新規件数	保留件数	29年度支援件数					生活保護受給者数	相談継続件数
	認知症	知的障害	精神障害	その他	計				認知症	知的障害	精神障害	その他	計		
丹波地域	6	1	0	1	8	0	8	2	11	2	2	1	16	3	3
瑞穂地域	5	0	2	1	8	2	3	0	7	0	2	1	10	3	0
和知地域	3	0	0	1	3	1	4	0	3	0	1	1	5	0	1
合計	14	1	2	3	20	3	14	0	21	2	5	3	31	6	3

①平成29年度 新規契約者数 → 14名

②平成29年度 解約者数 → 3名

■利用者数（単位：人）



■支援内容

支援内容	丹波	瑞穂	和知	合計	備考
○福祉サービス利用援助	16	10	5	31	福祉サービス利用契約手続き支援
○日常的金銭管理	16	10	5	31	衣食住等の日常経費の管理
○通帳・印鑑の預かり	15	10	4	29	通帳・印鑑の管理
○書類等の預かりサービス	5	6	0	11	年金証書、権利証書等の預かり

■専門員・支援員研修の開催

専門員・・・8回

研 修 名	開 催 日	内 容
第1回専門員・担当職員テーマ別研究交流会	H29. 6. 22	講義：精神障害者の地域生活と権利擁護 研修交流会：精神障害者への支援について
南丹 B 生活支援員研修交流会第1回検討会議	H29. 7. 26	南丹ブロック社協職員で南丹 B 生活支援員研修交流会の日程・内容等の検討を行った
南丹・乙訓B事例等検討会	H29. 10. 18	南丹・乙訓ブロック内で支援しているケースを持ち寄り事例検討を行った。
法テラス京都地方協議会	H29. 10. 26	法テラスの地方協議会に出席し、法テラスの制度説明、情報交換を行った。
南丹 B 生活支援員研修交流会第2回検討会議	H29. 11. 27	南丹ブロック社協職員で南丹 B 生活支援員研修交流会の詳細について検討を行った
中部自治体と京都弁護士会との懇談会	H29. 11. 28	京都弁護士会を中心としたの相談事業について説明を受けた。
障害者・高齢者虐待の困難事案への対応に係る事例検討会	H30. 2. 26	事例から障害者・高齢者虐待への対応方法や支援施策等について学んだ。
第2回専門員・担当職員・テーマ別研究交流会	H30. 3. 9	本事業制度の状況の説明と障害者の自立した地域生活についての講義を受けた。

生活支援員・・・4回

研 修 名	開 催 日	内 容
第2回新任生活支援員研修	H29. 10. 26	本事業の生活支援員としての心構えや業務内容など基礎研修。
生活支援員現任研修（北部）	H29. 11. 2	講義『利用者の今を理解する』と利用者の暮らしを支えている事例の実践発表。
南丹ブロック現任生活支援員研修交流会	H29. 12. 6	南丹ブロックから1事例ずつケースを用いた事例発表とグループワークを行った。
傾聴講座（町社協主催）	H30. 2. 26	本事業の利用者への寄り添いに必要な要素である傾聴技術の向上のため傾聴講座へ参加。

【成果・課題】

新規の問合せが例年以上に入り、今年度に問合せが入ったケースの内、契約の必要があるケースについては、ほとんど契約をすることができた。それにより契約件数が一気に増え20件から31件と11件の増となった。

また、多重債務や滞納を抱えた方の相談が多く、弁護士に依頼して自己破産や任意整理を行うなどの複雑なケースが増えてきていることが今年度の特徴である。このようなケースについては、保健福祉課（室）や包括支援センターなど関係機関との連携を密にして対応を行った。

契約件数の増に伴い、非常に多くの事務量と調整・対応にかかる時間が必要になっている。

2 住民寄り添い型助け合い活動かがやき

世帯状況の変化に伴い生活上の困りごとを誰にも相談できず、地域の中で孤立する高齢者や障害者が増えている。また、介護保険法の改正に伴い、介護予防・生活支援の充実等が求められている中、住民の主体的な参加と協力によりお互いさまの気持で助け合う活動の推進を行う。

(1) 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数 (件)	3	6	7	7	3	7	4	7	13	1	1	2	55
新規利用者数 (人)	1	3	2	1	0	0	0	2	8	0	0	1	18
相談件数 (活動外)	1	3	2	1	2	3	4	1	2	0	3	0	22

(2) 依頼内容

掃除（風呂掃除、ガラス戸拭き、高い所の掃除、玄関掃除など）、衣替え、部屋の模様替え、荷物整理、草引き、調理、障子の張替、網戸の張替、畑のマルチ張りなど

(3) 講座・研修会

日時・会場	内容	参加者数
H29.9.26 (火) 13:30～15:30 瑞穂保健福祉センター	講義 「地域での共生社会を創造する」 ～自分で！お互いに！共に！顔晴る地域づくり～	22名
H29.9.27 (水) 13:30～15:30 瑞穂保健福祉センター	学習・交流会 「感染症の基礎知識と予防について」 「物忘れ症状の理解、個人情報の保護について」 意見交換会	12名
H30.2.7 (水) 13:30～15:30 上乙見区公民館	説明会 「かがやきについて」	19名

(4) 登録活動者数

58名（男性 17名、女性 41名）

【成果・課題】

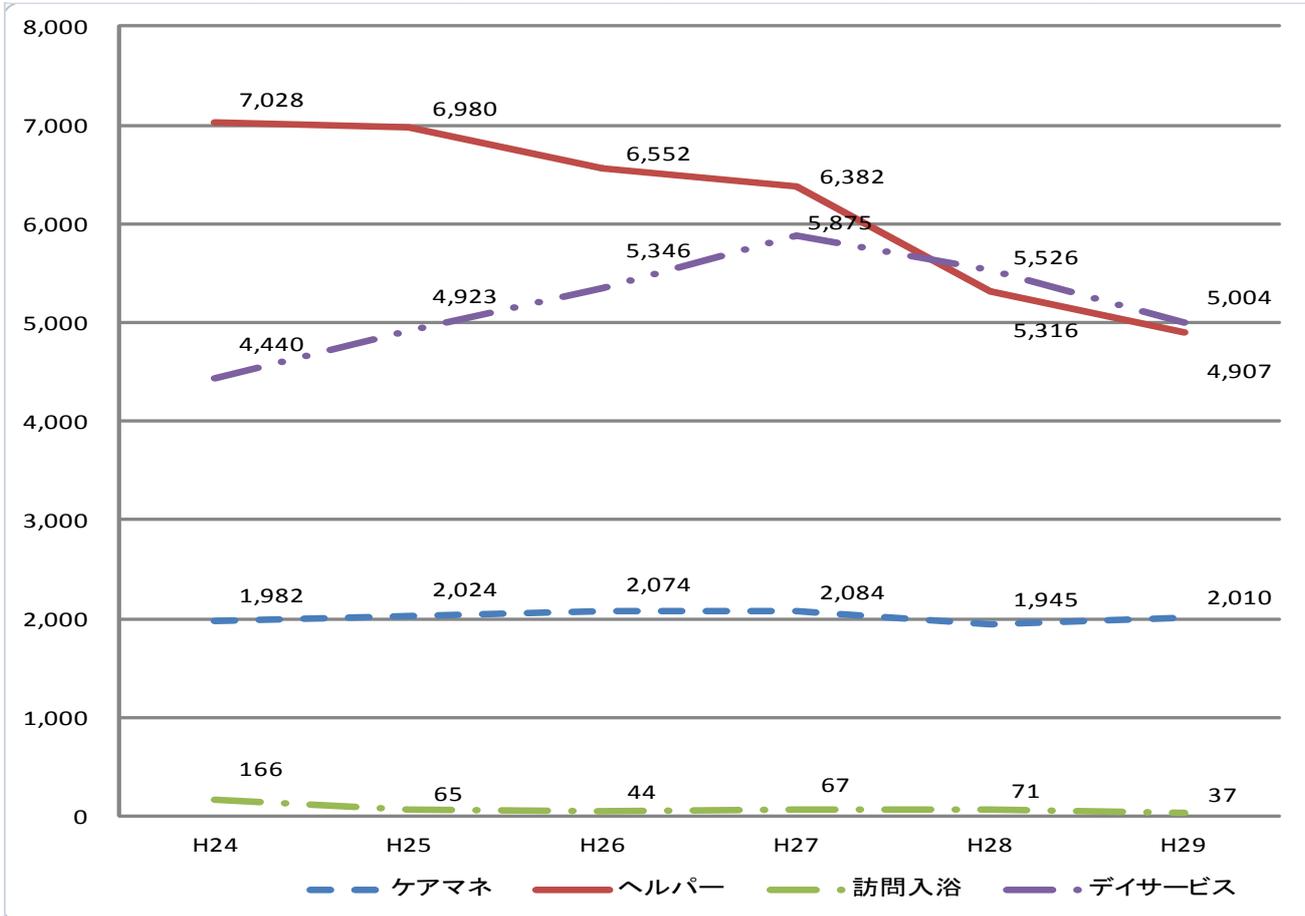
- ・末期癌の方からの依頼（部屋の模様替え）やパーキンソン病の方からの依頼（昼食を準備する）等に、地域住民が寄り添い、依頼者と一緒に活動することで、地域とのつながり、自分らしさが大切にされると共に、依頼者の暮らしを我が事として捉える住民が増えている。
- ・小地域に向いて活動の趣旨や状況を伝える事により、近隣住民同士で暮らしの中の困りごとに関心を持つきっかけになっている。

【高齢者福祉事業】

●介護保険事業

※利用状況推移（要支援1、2、総合事業、要介護1～5の合計）

- ・ケアマネ（延べ利用者数、単位：人）
- ・ヘルパー（延べ提供回数、単位：回）
- ・訪問入浴（延べ提供回数、単位：回）
- ・デイサービス（延べ提供回数、単位：回）



（1）居宅介護支援事業・・・ケアマネジャーによる介護サービス利用の支援

職 種 名	ケアプランセンターほほえみ	備 考
管 理 責 任 者	1名	
ケアマネジャー	6名	1名管理責任者兼務

○高齢者生活支援事業・総合事業（平成28年3月から移行開始）・・・京丹波町委託事業

■対象者：概ね65歳以上の高齢者で、日常生活上の援助が必要な要支援者

■内 容：ケアマネジメント

■予防介護支援事業の実績（総合事業・要支援1・2の利用状況実績）

延べ利用者数（人）	要支援1	要支援2	総合事業	合 計
29年度	46	181	77	304
28年度	54	186	24	264
27年度	44	219	-	263
前年度比較（%）	85.1	97.3	320.8	115.1
27年度比較（%）	104.5	82.6	-	115.5

■居宅介護支援事業の実績（介護1～5までの利用状況実績）

延べ利用者数	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
29年度	553	568	378	168	39	1,706
28年度	502	645	359	135	40	1,681
27年度	578	763	321	132	27	1,821
前年度比	110.1	88.0	105.2	124.4	97.5	101.4
27年度比較	95.6	74.4	117.7	127.2	144.4	93.6

【成果・課題】

職員間での情報交換を行い、業務上の連携等体制が整っている。

課題として収益を上げていく上で、今後、主任ケアマネの講習を受けた者が管理者となり、特定事業所加算が取れる体制にしなければならないと考えています。（経過措置3年：2021年度から適用）

（2）訪問介護事業・・・ホームヘルパーによる在宅支援活動

職 種 名	ヘルパーセンターほほえみ	備 考
管理責任者	1名	
サービス提供責任者	2名	常勤ヘルパーが兼務
常勤ホームヘルパー	4名	
登録ホームヘルパー	15名	

■予防訪問介護事業の実績（総合事業・要支援1・2の利用状況実績）

延べ利用者数（人）	要 支 援 1	要 支 援 2	総合事業	合 計
29年度	4	19	34	57
28年度	27	30	50	107
27年度	88	54	-	142
前年度比較（%）	14.8	63.3	68.0	53.2
27年度比較（%）	4.5	35.1	-	40.1
延べ提供回数（回）	要 支 援 1	要 支 援 2	総合事業	合 計
29年度	11	72	138	221
28年度	108	111	179	398
27年度	360	199	-	559
前年度比較（%）	10.2	64.9	77	55.5
27年度比較（%）	3.1	36.2	-	39.5

■訪問介護事業の実績（介護1～5の利用状況実績）

延べ利用者数	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
29年度	148	215	73	82	15	533
28年度	168	228	81	52	9	538
27年度	195	193	101	62	9	560
前年度比	88.1	94.3	90.1	157.7	166.6	99.1
27年度比較	75.9	111.4	72.3	132.3	166.6	95.2
延べ提供回数	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
29年度	827	1,854	420	1,423	162	4,686
28年度	948	1,949	896	915	210	4,918
27年度	1,117	1,811	1,302	1,199	394	5,823
前年度比	87.2	95.1	46.9	155.5	77.1	95.3

27年度比較	74.0	102.4	32.3	118.7	41.1	80.5
--------	------	-------	------	-------	------	------

【成果・課題】

- ・介護事業所全般に言えることであるが、訪問介護員においても成り手が少なく、募集を出しても応募もない。今後団塊世代の方が後期高齢者域に達すれば、徐々に支援対象者となられていくことが予想されるが訪問介護事業所体制が充実しなければ在宅支援ニーズに十分に答えられない。
また自立生活支援の視点を持って訪問支援することが今後更に求められ、地域福祉課が行う「かがやき事業」も紹介して行く必要がある。
- ・総合事業の利用者においても入浴時の見守りなど身体介護要素のあるサービス利用が増えている。
- ・通院等乗降介助対象者においてヘルパーが活動することにより、その時間帯には在宅活動が出来ないため、外出支援ニーズと共に乗降介助対象者が増えるとヘルパー体制が難しくなる。
- ・身体介護と生活援助のサービス提供割合で言えば、若干生活援助の利用が多い。30年度制度改正において生活援助における報酬改定の見直しが決定され事業所の安定した運営を行うため、今後の事業展開の検討が必要である。

(3) 訪問入浴介護事業・・・入浴車で在宅に訪問し、入浴支援

職 種 名	瑞 穂 事 業 所	備 考
管理責任者	1名	在宅福祉課長兼務
介護職員	2名	
看護師	2名	デイ看護師1名兼務

■ 予防訪問入浴事業・・・29年度利用者なし

■ 訪問入浴介護事業の実績（介護1～5の利用状況実績）

延べ利用者数（人）	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
29年度	6	3	0	1	4	14
28年度	10	0	0	9	0	19
27年度	7	2	0	6	4	19
前年度比較（%）	60.0	150.0	0	11.1	100.0	73.6
27年度比較（%）	85.7	150.0	-	16.6	100.0	73.6
延べ提供回数（回）	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
29年度	19	8	0	3	7	37
28年度	39	0	0	32	0	71
27年度	31	5	0	23	8	67
前年度比較（%）	48.7	160.0	0	9.4	87.5	52.1
27年度比較（%）	61.3	160.0	-	13.0	87.5	55.2

【成果・課題】

- ・自宅入浴が困難な方、外出しての入浴が困難な方、ほぼ寝たきりの方などへの入浴支援をしているが、年度途中にはやや利用者が増えた。
- ・終末期を迎えられる方々への入浴支援としての役割を果たせたと言える。

(4) 通所介護事業・・・デイサービスセンターで、入浴・余暇活動等を提供

■ 予防通所介護事業の実績（要支援1・2の利用状況実績）

延べ利用者数（人）	要 支 援 1	要 支 援 2	総合事業	合 計
29年度	0	0	130	130
28年度	3	24	68	95

27年度	4	75	-	79
前年度比較 (%)	-	-	191.2	136.8
27年度比較 (%)	-	-	-	164.6
延べ提供回数 (回)	要支援 1	要支援 2	総合事業	合計
29年度	0	0	792	792
28年度	25	24	436	602
27年度	20	75	-	469
前年度比較 (%)	-	-	181.7	131.6
27年度比較 (%)	-	-	-	168.9

■通所介護事業の実績 (介護1～5の利用状況実績)

延べ利用者数 (人)	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
29年度	168	164	63	93	26	516
28年度利用状況	208	206	104	67	35	620
27年度利用状況	201	250	117	81	24	673
前年度比較 (%)	80.8	79.6	60.6	138.1	74.3	83.2
27年度比較 (%)	83.6	65.6	53.8	114.8	108.3	76.7
延べ提供回数 (回)	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
29年度	1,314	1,399	577	759	163	4,212
28年度	1,492	1,778	869	529	256	4,924
27年度	1,340	2,175	1,077	681	133	5,406
前年度比較 (%)	88.0	78.7	66.3	143.5	63.7	85.6
27年度比較 (%)	98.1	64.3	53.6	111.5	122.6	77.9

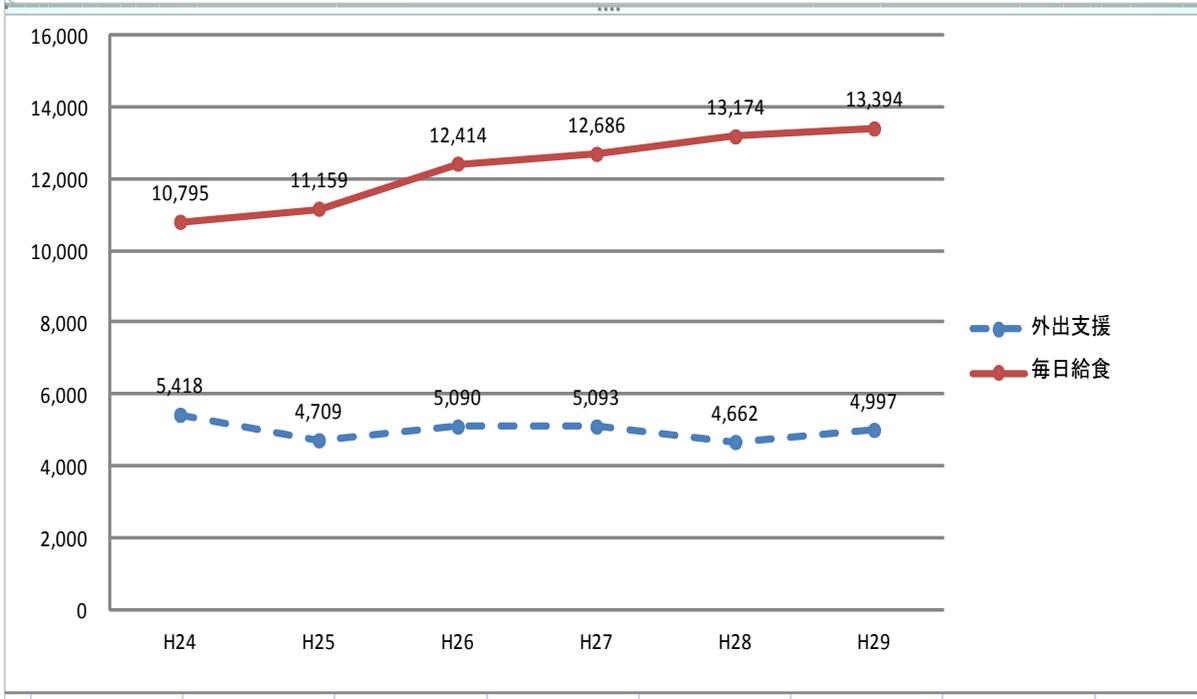
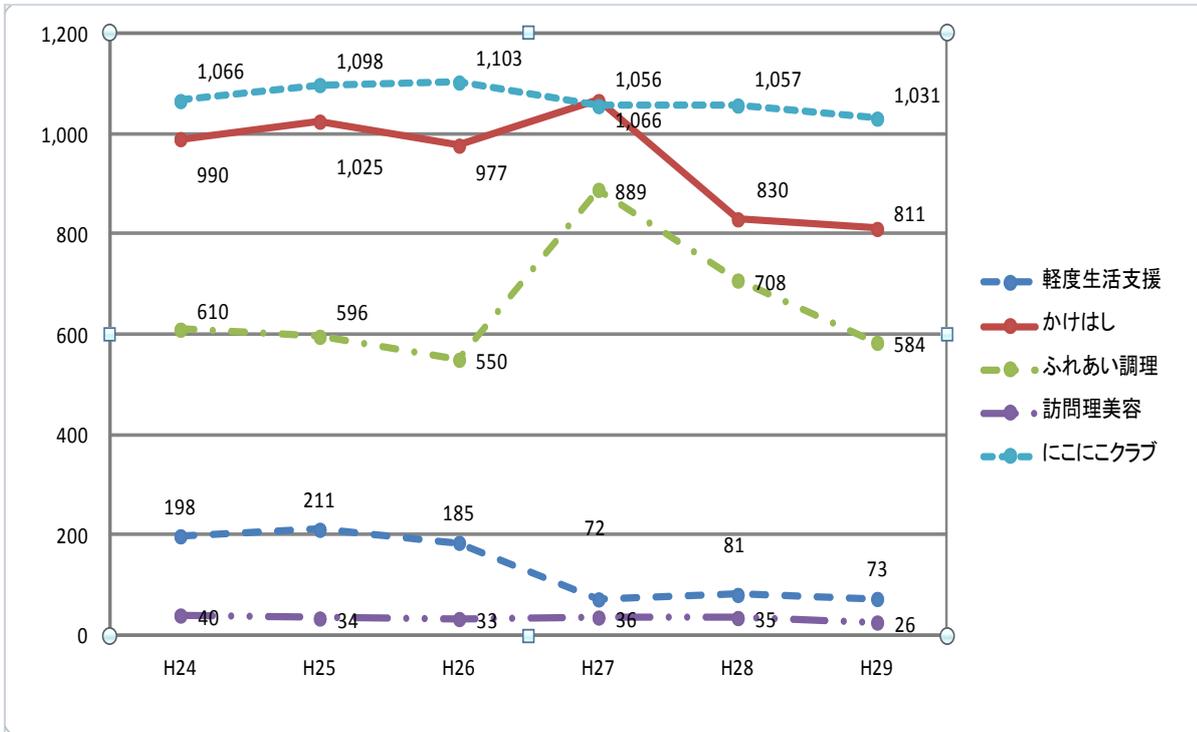
【成果・課題】

- ・要支援利用者の総合事業への移行は、28年度中に順調に移行できた。また、29年4月からは、利用料の改定が行われ、これまでの一月定額制から利用回数制となり、利用料が減収となった。
- ・利用者について、上半期においては重度者の利用増加（前年比144.3%）が見られたが、下半期ではショートステイ、入院、入所等の影響もあり、1日平均利用者数18名の目標を下回り、利用平均15名を切る大幅な利用減少となった。利用者が望む自宅での生活を基本とする中で、在宅生活を維持することがぎりぎりの状況でのデイ利用となり、本サービス利用をするための条件の基本が崩れてきている実態が見られる。
- ・上記のような利用減少の中で、利用者に対する質の高いサービス提供をするためには、職員間でどのような取り組みをすればよいか、お一人おひとりの状況や思いに沿った取り組みのあり方について、協議・検討する機会を作ってきた。今後も引き続き取り組んでいきたいと考えている。
- ・29年度目標の一つに、「地域の社会福祉資源としてのデイサービスセンター」を掲げ、地域の方々の福祉学習の場として、「キッズボランティア体験（夏休み・春休み）」「作業所利用者の就職に向けた実習体験」「中高生の体験学習」の取り組みを、学校、共同作業所、地域福祉課等の協働の中で行った。
- ・最後に、送迎時において絶対に起こしてはならない交通事故を起こしてしまい、利用者が負傷し入院・通院という事態を招いたことについて、お詫び申し上げると共に、職員全体でこれまでの業務を見直し、再発防止に向けた取り組みや南丹警察署による交通安全教室の研修を実施している。

●高齢者生活支援事業・・・京丹波町委託事業

※利用状況の推移

- ・軽度生活支援（延べ提供回数合計、単位：回）
- ・ふれあい調理（延べ参加人数合計、単位：人）
- ・にこにこクラブ（延べ提供回数合計、単位：回）
- ・毎日給食（延べ配食数合計、単位：食）
- ・かけはし弁当（延べ配食数合計、単位：食）
- ・訪問理美容（延べ提供回数合計、単位：回）
- ・外出支援（延べ提供回数合計、単位：回）



(1) 軽度生活支援事業

- 対象者：概ね65歳以上の高齢者で、一人ぐらし高齢者・高齢者世帯等、日常生活上の援助が必要な方
- 内 容：掃除、洗濯、調理、他軽易な日常生活上の援助
- 提供者：ホームヘルパー

延べ利用者数 (人)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
29 年度	12	15	0	27
28 年度	12	26	0	38
27 年度	7	40	0	47
前年度比較 (%)	100.0	57.7	-	71.1
27 年度比較 (%)	171.4	37.5	-	57.4
延べ提供回数 (回)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
29 年度	52	21	0	73
28 年度	43	38	0	81
27 年度	18	54	0	72
前年度比較 (%)	120.9	55.3	-	90.1
27 年度比較 (%)	288.8	38.8	-	101.4

【成果・課題】

総合事業に移行される方もおられ、今後は軽度生活の利用者は減少していくと思われる。

(2) 外出支援事業

- 対象者：概ね65歳以上の高齢者、または概ね60歳以上の高齢者であって下肢が不自由な方で、一般の交通機関の利用が困難な方
- 内 容：自立生活を維持し、要介護状態への進行を防止するために必要と認められる通院や買い物等の送迎
- 提供者：運転介助員、ホームヘルパー

延べ利用者数 (人)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
29 年度	675	551	271	1,497
27 年度	693	558	230	1,490
26 年度	720	534	239	1,493
前年度比較 (%)	97.4	98.7	117.8	100.5
26 年度比較 (%)	93.8	103.2	113.4	100.3
延べ提供回数 (回)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
29 年度	2,349	1,635	1,013	4,997
28 年度	2,270	1,688	704	4,662
27 年度	2,585	2,029	479	5,093
前年度比較 (%)	103.5	96.9	143.9	107.2
27 年度比較 (%)	90.9	80.6	211.5	98.1

【成果・課題】

(丹波・瑞穂地区)

- ・高齢化に伴い、送迎時に介助する機会が増え、安全に病院などに送迎するためには介護の技術が必要になってきている。今後ますます介助が必要な利用者が増えてくると考えられる。
- ・公用車をデイサービスやヘルパー業務でも使用する為、事前に調整を行いながら送迎を行っているが、当日急に送迎の依頼が入ってくることや、予約時間が重なっている時などに送迎する車両がなく、送迎

を待ってもらっても生じてきている。またリクライニングの車いすを使用される方の送迎依頼も入り、軽自動車では乗れないため、リフト付きの大型車両で送迎を行う必要があり、送迎を行える運転手も限定され調整が難しい。

(和知地区)

- ・常に運転手不足を感じる。今年度は新規で2名の方にお世話になっている。
- ・公共交通機関の空白化により通院困難な方が増加している。病院までが遠く一件あたりに時間がかかる。

(3) - 1 食の自立支援事業 (毎日給食)

■対象者：調理が困難な一人暮らし高齢者

■内 容：栄養バランスのとれた夕食弁当の宅配

■利用料：1食 500円

延べ利用者数 (人)	瑞 穂	和 知	合 計
29年度	511	223	734
28年度	540	202	742
27年度	550	181	731
前年度比較 (%)	94.6	110.4	98.9
27年度比較 (%)	92.9	123.2	100.4
延べ提供食数 (食)	瑞 穂	和 知	合 計
29年度	8,791	4,603	13,394
28年度	9,151	4,023	13,174
27年度	9,179	3,507	12,686
前年度比較 (%)	96.1	114.4	101.7
27年度比較 (%)	95.8	131.3	105.6

【成果・課題】

- ・2月から3月にかけて配食数が増え、1日平均して50食以上提供している状況。特に和知地区の利用者が増えてきている。
- ・配食を行ってもらおうボランティアを広報で募集を行うものの、ボランティアは増えることはなかった。特に和知地区はボランティアが減少しているため、職員が配食を行っている。

(3) - 2 食の自立支援事業 (ふれあい型給食サービス)

■対象者：一人暮らし高齢者・高齢者世帯等

■内 容：調理・配食ボランティアによる月2回実施の「かけはし弁当」

■利用料：1食 400円

	配食数 (食)	調理ボラ数 (人)	配食ボラ数 (人)
29年度	811	118	334
28年度	830	120	356
27年度	1,066	119	330
前年度比較 (%)	97.7	98.3	93.8
26年度比較 (%)	76.1	99.1	101.2

(3) - 3 高齢者食生活改善事業 (高齢者ふれあい調理実習会)

■対象者：一人暮らし高齢者・高齢者世帯等の高齢者

■内 容：食生活改善推進員協議会「くるみの会」の協力を得て、「作る喜び」「大勢で食べる喜び」等を感じてもらおうと共に、調理方法を学ぶ

■利用料：1食 400円

<丹波地区>

	対象地域	開催日	参加者数(名)	くるみの会(名)
第1回	竹野地区	H29. 6. 30	7	3
	高原地区	H29. 6. 28	0	0
	須知地区	H29. 6. 29	0	0
	下山地区	H29. 6. 27	8	7
第2回	竹野地区	H29. 12. 5	4	5
	高原地区	H29. 11. 28	3	4
	須知地区	H29. 12. 1	3	5
	下山地区	H29. 11. 24	10	5
合 計			33	29
28年度実績			60	43
前年度比(%)			55.0	67.4

<瑞穂地区>

	対象地区	開催日	参加者数(名)	くるみの会(名)
第1回	桧山地区	H29. 7. 6	10	4
	梅田地区	H29. 7. 3	20	6
	三ノ宮地区	H29. 6. 23	12	3
	質美地区	H29. 6. 28	8	4
第2回	桧山地区	H29. 11. 30	9	5
	梅田地区	H29. 12. 4	22	8
	三ノ宮地区	H29. 11. 20	9	3
	質美地区	H29. 11. 27	10	3
合 計			100	36
28年度実績			181	36
前年度比(%)			55.2	100.0

<和知地区>

	区 名	開催日	参加者数(名)	くるみの会(名)	
第1回	中山	H29. 6. 25	4	3	
	升谷	H29. 6. 15	16	1	
	市場	H29. 6. 10	9	3	
	大倉	H29. 6. 16	9	2	
	篠原	H29. 6. 27	7	3	
	大迫	H29. 6. 13	7	3	
	長瀬	H29. 7. 22	14	2	
	塩谷	H29. 6. 18	5	1	
	上乙見	H29. 6. 30	6	2	
	西河内	H29. 6. 25	13	2	
	下栗野	H29. 6. 25	11	1	
	細谷	未実施			
	上栗野	H29. 6. 22	4	1	
	仏主	H29. 6. 29	5	1	
	本庄	H29. 6. 13	6	2	
	坂原	H29. 6. 24	8	2	
中	H29. 6. 28	13	2		

	角	H29. 7. 4	11	2
	広瀬	H29. 7. 4	12	1
	才原	H29. 6. 16	18	2
	大簾	H29. 7. 7	9	2
	広野	H29. 6. 17	6	2
	出野	H29. 7. 6	8	1
	稲次	H29. 7. 8	9	2
	安栖里	H29. 6. 15	16	4
	小畑	H29. 6. 16	12	3
第2回	中山	H29. 11. 11	9	3
	升谷	H29. 11. 22	10	1
	市場	H29. 11. 16	9	2
	大倉	H29. 11. 20	6	2
	篠原	H29. 11. 10	6	3
	大迫	H29. 11. 4	8	3
	長瀬	H29. 11. 6	14	1
	塩谷	H29. 11. 8	7	1
	上乙見	H29. 11. 10	8	2
	西河内	H29. 11. 8	11	2
	下栗野	H29. 11. 11	6	1
	細谷	未実施		
	上栗野	H29. 11. 10	2	1
	仏主	H29. 11. 20	5	1
	本庄	H29. 11. 7	5	1
	坂原	H29. 11. 21	5	2
	中	H29. 11. 7	8	2
	角	H29. 11. 9	11	2
	広瀬	H29. 11. 10	10	1
	才原	H29. 11. 10	18	3
	大簾	H29. 11. 20	9	2
	広野	H29. 11. 12	6	4
	出野	H29. 11. 14	7	2
稲次	H29. 11. 17	13	2	
安栖里	H29. 11. 14	9	6	
小畑	H29. 11. 9	12	2	
合 計			451	106
前年度実績			467	106

【成果・課題】

参加者が年々減少してきていることと、参加して下さる高齢者も身体的に調理がしづらくなってきていることや、各地でサロンや食事会などが実施されていることから、これまで年2回開催してきたが、次年度からは年1回の開催とする。

<男性調理実習>

■対象者：町内在住の男性

■内 容：食生活改善推進員協議会「くるみの会」の協力を得て、健康的な食生活の推進と男性の食事づくりを応援することを目的に基礎を中心とした調理方法を学ぶ。

■利用料：1食 400円

■場所：和知ふれあいセンター 調理室

■時間：10:00～13:00

	開催日	参加者数	くるみの会
第1回	H29. 6. 21	13名	6名
第2回	H29. 9. 12	12名	6名
第3回	H29. 11. 6	12名	5名
第4回	H30. 3. 5	13名	6名
合 計		50名	23名

【成果・課題】

- ・全町へ広報し、少しずつ参加者が増えてきた。
- ・平成30年度より和知地区だけでなく、丹波・瑞穂地区での開催を計画する。(全4回開催は変わらないが、和知2回、丹波1回、瑞穂1回の開催予定。)

(4) 訪問理美容事業

■対象者：理美容院に出向くことが困難な高齢者等

■内 容：社協に登録された理美容師が訪問し理美容を行う

■利用料：1回 1,000円

延べ利用者数(人)	丹波	瑞穂	和知	合計
29年度	15	7	4	26
28年度	21	6	8	35
27年度	17	8	11	36
前年度比較(%)	71.4	116.6	50.0	74.3
27年度比較(%)	88.2	87.5	36.4	72.2

【成果・課題】

新規利用者が上がってくるものの利用には至らず、年々利用される方も減ってきている。デイサービスなどの介護保険事業で散髪を行っている事業所もあるため、今後ますます需要は減っていくものと考えられる。

(5) 通所型サービスA事業(にこにこクラブ)

■対象者：総合事業対象者の高齢者。

■内 容：5班体制で、月2回、健康観察と体操を取り入れ、介護予防や健康維持を目的に実施

■指導者：支援スタッフ…5名、看護師…3名、合計8名

■会 場：主会場は、和知高齢者コミュニティセンター

月	開催日	参加者数	スタッフ数
4月	18日、20日、27日	50	19
5月	9日、11日、18日、23日、25日、30日	99	40
6月	6日、8日、15日、20日、22日、29日	101	37
7月	4日、6日、13日、18日、20日、27日	95	40
8月	22日、24日、31日	50	20

9月	5日、7日、14日、19日、21日、28日	95	40
10月	3日、5日、12日、19日	98	27
11月	2日、7日、9日、16日、21日、30日	95	40
12月	5日、7日、12日、14日、19日、21日	106	40
1月	16日、18日、25日	46	20
2月	1日、6日、8日、13日、15日、22日	95	40
3月	6日、8日、15日、20日、22日	101	31
合 計		1,031	394
28年度実績		1,057	395
前年度比 (%)		97.5	99.7

【成果・課題】

介護予防体操を中心に実施してきたが、総合事業における通所A型事業として位置付けられ利用対象者の身体状況が幅広くなってきている。

受入体制の見直し、実施内容の見直しを図り事業を充実させていく。

●認知症専門相談窓口設置事業【新規】・・・・・・・・京丹波町委託事業

本業務は、認知症地域支援推進員を配置し、地域包括支援センター、医療機関及び介護関係事業所、地域の団体、住民等と連携し、認知症の初期の段階から終末期までの本人やその家族等の相談及び支援、地域の啓発、介護力向上等切れ目のない支援を目的とし、下記の事業を実施した。

(1) 認知症地域支援推進員の配置

- ① 認知症地域支援推進員研修・・・1回
- ② 認知症地域支援推進員会議等・・・2回

(2) 個別介護相談、事例検討会の実施

- ③ 家庭訪問等相談活動・・・・・・・・5回
(相談内容)
・認知症、介護相談
・近隣の方とのトラブル、等
- ④ 認知症サポート会議等出席・・・13回
- ⑤ 初期集中支援チーム員研修受講

(3) 認知症理解啓発講座開催

日時	会場	内容
H29. 5. 30	若竹センター	竹野ほほえみの会へ 「認知症の理解と窓口開設のお知らせ」
H29. 7. 15	水戸区集会所	水戸ふれあい・いきいきサロンへ 「認知症の理解について」
H29. 8. 1	橋爪区会所	こぶしの会へ 「SOSネットワーク活動について」
H29. 9. 25	行仏区公民館	行仏ふれあい・いきいきサロンへ 「SOSネットワーク活動について」
H29. 9. 27	京丹波町健康管理センター	京丹波町民生児童委員協議会丹波支部へ 「これからの認知症支援について」
H30. 2. 5	井脇区公民館	井脇ふれあい・いきいきサロンへ 「これからの認知症支援について」

(4) 介護家族交流会の実施 合計3回開催、参加延べ人数 16人

開催日時	会場	内容	参加数
H29. 7. 21	瑞穂保健福祉センター	嚥下講習（口腔改善・食べやすくする方法・とろみ剤の体験） 認知症勉強会（認知症の説明とケアパスの活用）	6人
H29. 8. 30	特別養護老人ホーム 高原荘	嚥下講習（口腔改善・食べやすくする方法・とろみ剤の体験） 認知症勉強会（認知症の説明とケアパスの活用）	7人
H29. 9. 26	特別養護老人ホーム 長老苑	嚥下講習（口腔改善・食べやすくする方法・とろみ剤の体験） 認知症勉強会（認知症の説明とケアパスの活用）	3人

(5) その他の活動

- ・社協広報ほほえみNo.40（平成29年6月号）にて認知症相談窓口開設のお知らせを掲載
- ・社協広報ほほえみNo.41（平成29年9月号）にて家族介護者教室開催のお知らせを掲載
- ・社協広報ほほえみNo.42（平成30年1月号）にて冬場のオレンジ勉強会のお知らせを掲載



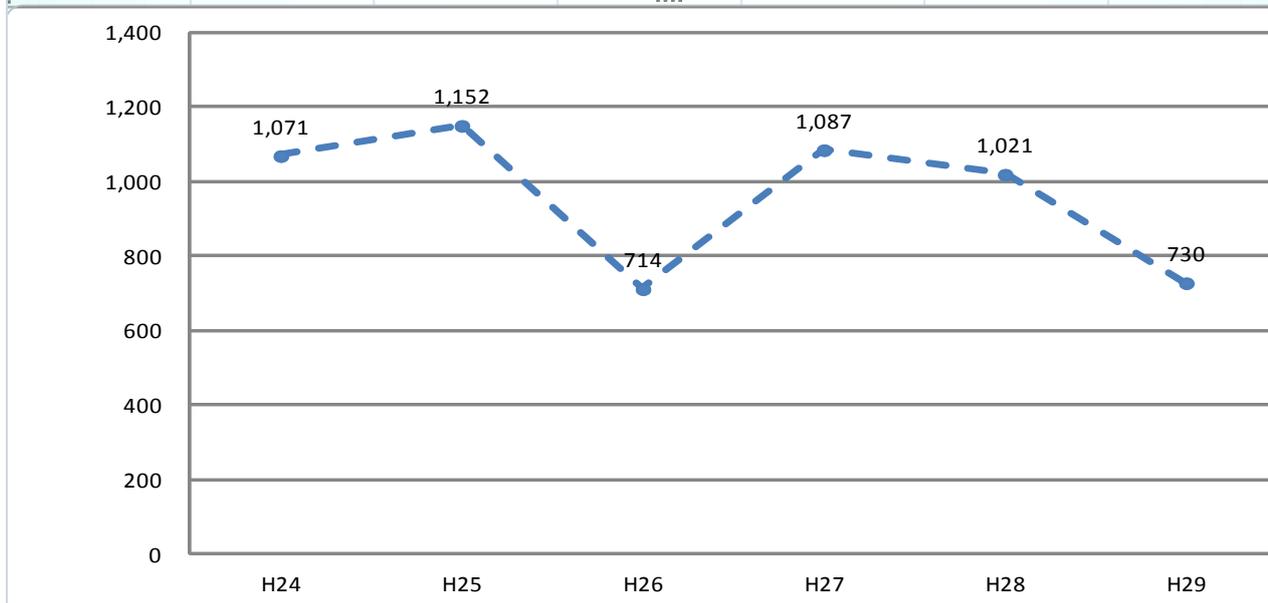
介護家族者交流会の様子

【障害者福祉事業】

●障害者総合支援事業

※利用状況の推移（延べ提供回数合計、単位：回）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
ヘルパー	1,071	1,152	714	1,087	1,021	730



(1) 居宅介護・重度訪問介護事業

■ホームヘルパーによる在宅支援活動

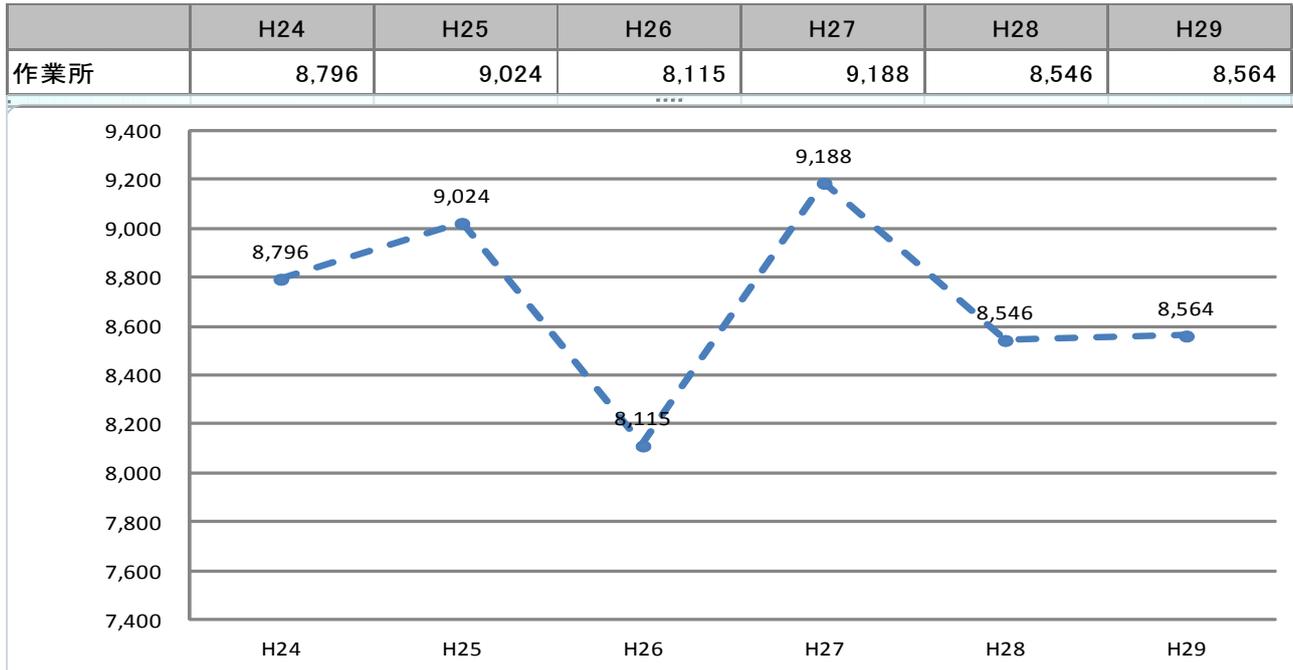
延べ利用者数 (人)	障害支援 区分 1	障害支援 区分 2	障害支援 区分 3	障害支援 区分 4	障害支援 区分 5	障害支援 区分 6	合 計
29 年度	12	24	50	12	12	12	122
28 年度	17	16	52	0	0	20	105
27 年度	24	30	41	0	0	20	115
前年度比較	70.5	150	96.1	-	-	60	116.1
27 年度比較	50	80	121.9	-	-	60	106
延べ提供回数 (回)	障害支援 区分 1	障害支援 区分 2	障害支援 区分 3	障害支援 区分 4	障害支援 区分 5	障害支援 区分 6	合 計
29 年度	143	135	130	0	0	322	730
28 年度	146	112	265	0	0	498	1,021
27 年度	214	125	290	0	0	458	1,087
前年度比較	97.9	120.5	49	0	0	64.6	71.4
27 年度比較	66.8	108	44.8	0	0	70.3	67.1

【成果・課題】

- ・訪問支援継続が難しいかと思われるケースもあったが、何とか訪問が継続できており、徐々にではあるが本人との信頼関係も深まりつつある。
- ・利用者本人への支援を第一に考えているが、家族や世帯を含めた支援が必要なこともあり、これまで以上に相談支援専門員（障害）と連携をとりながら支援を進める必要がある。

(2) 障害者共同作業所運営事業

※利用状況の推移 (延べ利用者数合計、単位：人)



①利用実績

延べ利用者数 (人)	生活介護	就労継続支援B型	合 計
29 年度	2,815	5,749	8,564
28 年度	2,894	5,651	8,546
27 年度	3,147	6,041	9,188
前年度比較 (%)	97.3%	101.7%	100.2%
27 年度比較 (%)	89.5%	95.2%	93.2%

②販売会

販売会名	開 催 日	内 容
スポーツレクリエーションフェスティバル	H29. 5. 21 (日)	丹波自然運動公園にて自主製品販売 保護者 2 名
大簾ほたるファンタジー	H29. 6. 17 (土)	大簾にて自主製品販売 職員 3 名
第 12 回福祉事業所説明会	H29. 7. 5 (水)	南丹市国際交流会館にて自主製品販売 職員 1 名利用者 2 名
2017 やまびこ夏祭り	H29. 7. 16 (日)	瑞穂山彦苑にて自主製品販売 職員 3 名
グリーンハイツ夏祭り	H29. 7. 22 (土)	グリーンハイツ商店街にて自主製品販売 職員 3 名
和知ふるさとまつり	H29. 8. 26 (土)	和知駅前にて自主製品販売 職員 3 名
おかあちゃんマルシェ	H29. 10. 8 (日)	南丹市国際交流会館にて自主製品販売 職員 3 名
わちふれあい祭り	H29. 10. 14 (土)	道の駅「和」にて自主製品販売 職員 2 名
ぬくもり京都丹波フェスタ	H29. 10. 28 (土)	桂川イオンモールにて自主製品販売 前日準備職員 3 名、当日 3 班に分かれ 7 名
丹波公園まつり	H29. 11. 3 (金)	丹波自然運動公園にて自主製品販売 職員 2 名
三ノ宮ふれあいまつり	H29. 11. 26 (日)	三ノ宮にて自主製品販売 職員 3 名
ふるさと人形店	H30. 3. 28 (土)	質美人形の館みやびにて自主製品販売 職員 2 名

③研修会

- 作業所職員全体研修会・・・2回
- 作業所看護師関連研修・・・3回
- 製品に関する研修・・・2回
- 南丹圏域ネットワーク・・・1回
- 運営等に関する研修・・・3回

④避難訓練（各支所年2回実施）

○第1回：火災を想定しての訓練

- 丹波本所 H29. 9. 29
- 瑞穂支所 H29. 9. 20
- 和知支所 H29. 9. 29

○第2回：地震を想定しての訓練

- 丹波本所 H30. 3. 23
- 瑞穂支所 H30. 3. 29
- 和知支所 H30. 3. 29



⑤地域交流（学校・地域の行事・ボランティア団体との交流を積極的に行う）

交流団体	開催日	内容
丹波桜梅園軽スポーツ大会	H29. 5. 18	丹波桜梅園にて 軽スポーツを通して利用者同士の交流
育ちゆく子らの交流会	H29. 8. 2	丹波：蒲生野中学校 瑞穂：山村開発センターみずほ 和知：和知ふれあいセンター 中学生が中心になり民生委員の方をはじめ地域の方々との交流
竹野小学校5年生	H29. 12. 1	丹波本所にて 作業交流
和知小学校5年生交流会	H30. 1. 26	和知支所にて ネギ作業での交流
七八会	H30. 2. 16	和知支所 作業交流と昼食会とレクリエーション
丹波ひかり小学校6年生 2クラス	H30. 2. 26～27	丹波本所にて 作業交流
訪問ボランティア「えがお」	H30. 3. 29	健康管理センターにて 音楽レクリエーション



⑥ 音楽レクリエーション



スポーツレクリエーション



和知小学校との交流

・月1回の看護師による健康観察と以下のようなことを実施した。

- ①住民健診または病院での血液検査を年1回は受診していただくよう計画し、1名のみ未受診であった。健康を管理するという意識が利用者や家族のなかで徐々に出来ている。
- ②京都府障害者歯科健診受診2年目 受診者20名
病院定期受診されている人が約10名
- ③熱中症予防対策やインフルエンザ予防には学習会と標準予防策を実施した。障害のために十分にできない事もあったが、熱中症救急搬送やインフルエンザ施設内感染はなかった。

・健康管理での今後の課題

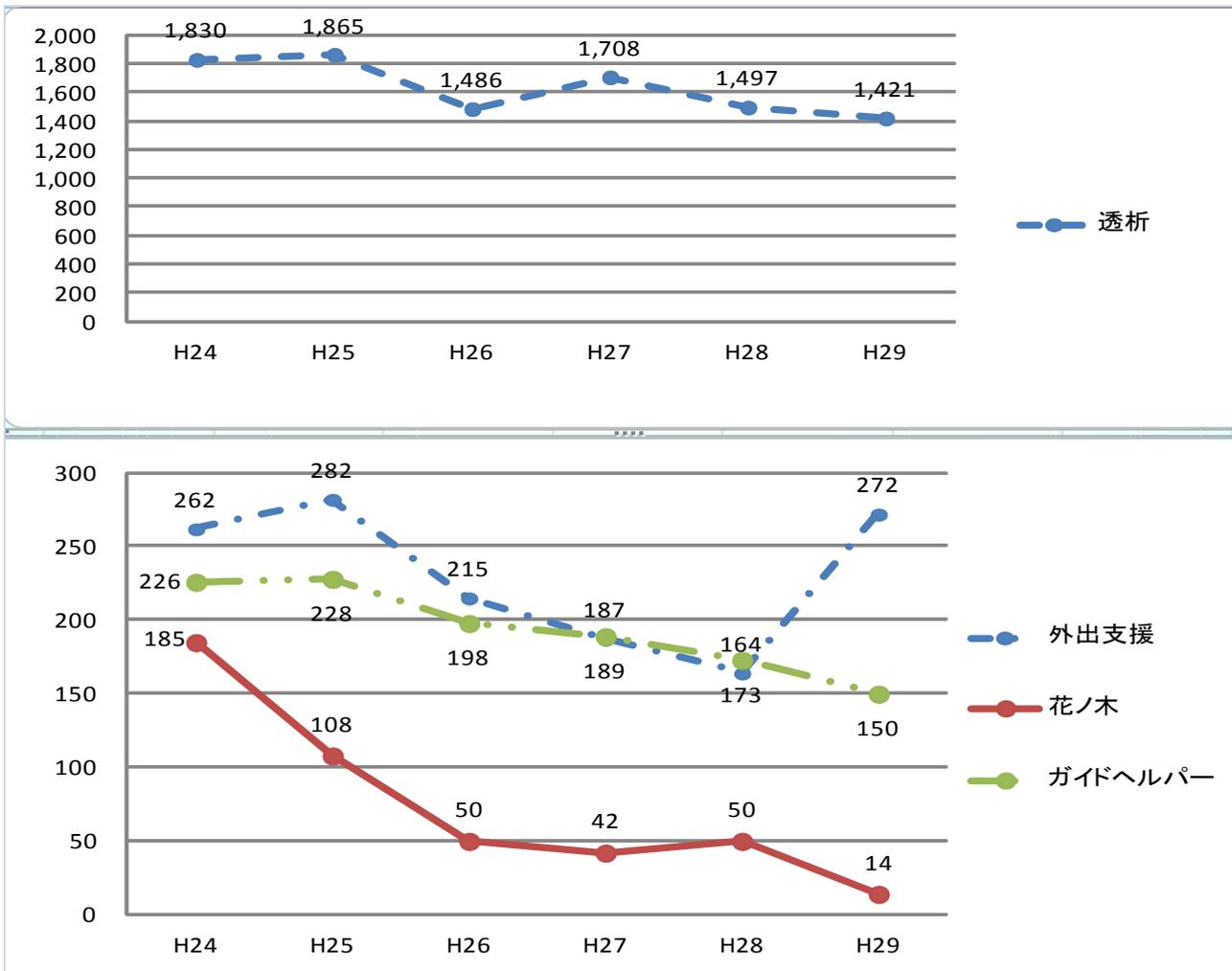
様々な障害や今までの生活習慣から、現状の生活を変える事が難しいケースも多いが健康を維持し怪我や事故を予防するために、様々な情報を早くにキャッチし、変化(新しい取り組み)を取り入れていきたいと考えている。

【全体成果・課題】

- ・社協の障害者福祉の取り組みとして、相談支援員研修の受講や事業についての研修を行なったことで30年度新規事業(相談支援事業)展開のための準備が進められた。
- ・作業に対する評価がより公平になされるよう、昨年度慎重に検討を重ねてきた新しい給与規定に基づき工賃の支給ができた。新たな手当が支給されるようになり工賃アップにもつながり、利用者の作業意欲も高まった。
- ・新しい作業を受注できたことや他の下請け作業も収益が増え、全体の就労事業の収益が伸びた。
- ・利用者の家庭の状況も変化していく中、緊急時の対応や将来に向けて不安を持たれている。家族からはグループホーム設立への要望もあり、このような不安解決に向け検討が必要。
- ・作業所内実習を行い、いつもと違う環境で過ごすことで就労に向けた訓練や、生活に対する意欲向上などの成果が得られた。
- ・1名の利用者が社協デイサービスでの実習を開始してから1年半が経過し、本人にとっても自信につながった。就労に対する意欲も高まってきたため、来年度は企業での実習につなげたいと考えている。
- ・最近の傾向として新規利用者は精神障害の方が多い。ケースによって対応は違うが、より専門的な知識が求められる。主治医とも密に連絡を取り合いながら職員一人ひとり適切な支援が出来るよう研鑽を重ねる必要がある。
- ・作業所の運営費が厳しい状況の中、建物や多機能型の在り方も見直す必要性が出てきている、今後課題解決に向けて行政にも相談しながら検討していきたい。

●障害者等生活支援事業

※利用状況の推移（延べ提供回数、単位：回）



(1) 外出支援事業（一般外出）

- 対象者：障害者手帳を所持されている方で、公共交通機関を利用することが困難な方
- 内 容：障害者の自立生活を維持し、要介護状態への進行を防止するために必要と認められる通院や買い物の送迎
- 提供者：社協外出支援運転手、ホームヘルパー

延べ利用者数 (人)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
29 年度	36	26	0	62
28 年度	30	38	0	68
27 年度	15	35	0	50
前年度比較 (%)	120.0	68.4	-	91.2
27 年度比較 (%)	240.0	74.3	-	124.0
延べ提供回数 (回)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
29 年度	152	120	0	272
28 年度	177	124	0	164
27 年度	93	94	0	187
前年度比較 (%)	85.9	96.8	-	165.9
27 年度比較 (%)	163.4	127.7	-	145.5

(2) 重度心身障害児・者通院通所事業

①人工透析通院送迎

- 対象者：人工透析患者
- 内 容：人工透析のための通院送迎
- 提供者：社協外出支援運転手、ホームヘルパー

延べ利用者数 (人)	瑞 穂 発 (R9)	和 知 発 (R27)	合 計
29 年度	131	52	183
28 年度	122	65	187
27 年度	120	75	195
前年度比較 (%)	107.4	80.0	95.9
27 年度比較 (%)	109.2	69.3	93.8
延べ提供回数 (回)	瑞 穂 発 (R9)	和 知 発 (R27)	合 計
29 年度	783	638	1,421
28 年度	782	715	1,497
27 年度	784	924	1,708
前年度比較 (%)	100.1	89.2	94.9
27 年度比較 (%)	99.9	69.0	82.7

【成果・課題】

- ・透析利用者の方の高齢化、車いすの介助等で、より運転に細心の注意や配慮が必要になってきている。また透析送迎が朝、昼、夜の3回送迎を行っているため、運転手の確保が今後も課題となっている。
- ・京都中部総合医療センターと綾部市立病院への送迎業務があり、運転手の確保が困難である。現状は瑞穂・丹波地域の運転手が業務に入っている。
- ・早朝に出発のため、冬場の利用者の足元の安全確保や除雪の問題を抱えている。

②花ノ木通所送迎

- 対象者：重度心身障害者で療育通所利用者
- 内 容：花ノ木地域療育施設通所送迎
- 提供者：社協外出支援運転手

	延べ利用者数 (人)	延べ提供回数 (回)
29 年度	4	14
28 年度	12	50
27 年度	10	42
前年度比較 (%)	33.3	28.0
27 年度比較 (%)	40.0	33.3

※体調不良により現在、休止中。

(3) 障害者ガイドヘルパー派遣事業

延べ利用者数 (人)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
29 年度	24	4	33	61
28 年度	24	8	39	72
27 年度	21	14	39	74
前年度比較 (%)	100.0	50.0	84.6	84.7
27 年度比較 (%)	114.3	28.6	84.6	82.4
延べ提供回数 (回)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
29 年度	68	4	78	150

28年度	82	9	82	173
27年度	97	15	77	189
前年度比較 (%)	82.9	44.4	95.1	86.7
27年度比較 (%)	70.1	26.7	101.3	79.4

【成果・課題】

- ・同性介助を依頼された場合、特に男性ガイドヘルパーが少なく、求めに応じた稼働できない実態があり、課題と感じる。

【児童福祉事業】

(1) ファミリー・サポート・センター事業

① 各会員登録状況（3月末）

会 員 名	29年度末	新規登録者数	退会者数	28年度末
依頼会員（お願い会員）	61	9	3	55
提供会員（預かり会員）	45	1	2	46
両方会員	14	2	1	13

② 研修会交流会の開催・・・預かり会員養成研修会、会員交流会

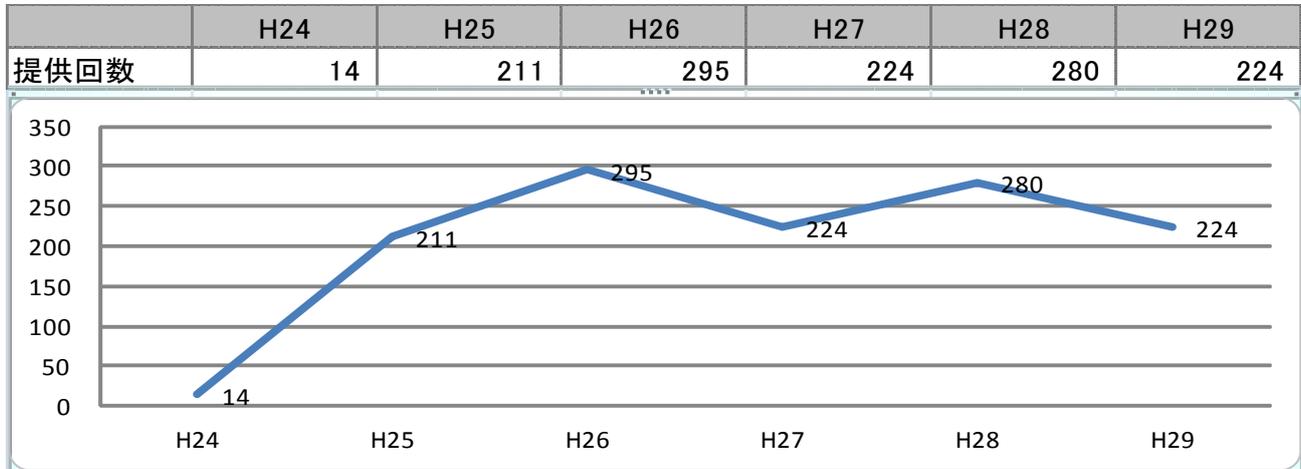
内 容	日時・場所	研 修 内 容
会員交流会	H29. 9. 20（水） 瑞穂保健福祉センター	ヨガ教室、茶話会（依頼・両方会員） 依頼会員 1名、両方会員 2名、託児数 2名 講師：橋本 果遊 氏
会員交流会	H29. 10. 19（木） 瑞穂保健福祉センター	ヨガ教室、茶話会（提供・両方会員） 提供会員 2名、両方会員 2名 講師：橋本 果遊 氏
提供会員養成講習会	H29. 12. 7（木） 瑞穂保健福祉センター H29. 12. 14（木） 瑞穂保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利（人権）について 人権擁護委員 山内 津八子 氏 ・京丹波町の子育て支援について 子育て支援課 並河 直樹 氏 ・受講生交流 ・活動体験談（提供会員・依頼会員） ・救急救命講習 赤十字幼児安全指導員 村岡 和恵 氏 ・子どもの病気と世話について 京丹波町保健福祉課 保健師 堀 道枝 氏、保田 智子 氏 ・あずかり会員として ファミリー・サポート・センター アドバイザー ・子どもの社会性と遊びについて 京丹波町立上豊田保育所 保育士 伴田 絵理 氏 <p>参加者 11名 (提供会員 1名、両方会員 4名、再受講 6名)</p>
会員交流会	H30. 2. 24（土） 瑞穂保健福祉センター	絵付け体験、茶話会、KYT（危険予測トレーニング）、グループワーク 提供会員 2名、依頼会員 4名 両方会員 3名、会員の子ども 15名 講師：陶房「呑」岡田 八重子 氏

③ 活動実績・・・調整状況

事 業 名	回 数	内 容
マッチング	8	習い事への送迎、保護者の用事時の預かり、保護者就労時の預かり、保育施設前後の送迎と預かり

活動実績	224	習い事への送迎、保護者の用事時の預かり、保護者就労時の預かり、学童の迎えと学童後の預かり
------	-----	--

※活動実績の推移（延べ提供回数、単位：回）



【成果・課題】

- ・提供会員養成講習会は、提供会員1名、両方会員4名、救急救命再受講が6名の参加であった。
- ・3月の会員交流会で、危険予測トレーニングのグループワークを行った。大人だけでなく子どもたちも一緒に参加し、リスクマネジメントの重要性について考えてもらえる時間を持つことができた。
- ・依頼会員は微増の状況であるが、提供会員・両方会員は横ばい状態である。

■会員交流会（3月）の様子



陶芸の絵付け



危険予測訓練には子どもたちも一緒に家の中での危ない箇所を考えました。

【地域福祉推進事業】

1 啓発活動の展開

(1) 社協広報紙「ほほえみ」の発行

NO	発行日	内容等
第39号	 4月17日発行	社協職員配置図、社協の相談事業紹介、日赤社資協力のお願ひ、自分の町を良くする活動助成報告、絆ネット構築支援事業、助け合い活動「かがやき通信」、デイサービス日帰り旅行、作業所 NEWS ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、寄付お礼
第40号	 6月17日発行	28年度事業計画・予算、社協会費のお願ひ、社協事業紹介 災害ボランティアセンターの活動について、在宅福祉課よりお知らせ、作業所 NEWS、ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、職員募集のお知らせ、新しいレクリエーション道具について 寄付お礼
第41号	 9月17日発行	新役員・新評議員紹介、赤い羽根共同募金のお願ひ、平成28年度事業報告・決算報告、在宅福祉課よりお知らせ、災害ボランティアセンターよりお知らせ、社会福祉体験学習について、作業所 NEWS ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、寄付お礼
第42号	 1月17日発行	社協会長新春メッセージ、年末お掃除応援隊（かがやき）、福祉まつり2017、京都府福祉大会、共同募金ご協力のお礼、見守りネットワーク、相談事業のお知らせ、双葉町との交流支援活動、冬場のオレンジ勉強会（認知症勉強会）、作業所 NEWS、ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、寄付お礼

【成果・課題】

京丹波町社協の広報紙として年に4回（季刊紙）、全戸配布で発行。法人の基本理念や事業計画・予算、事業報告・決算の情報をお伝えしたり、社協事業や災害対策などについての情報の発信を行った。

共同作業所ニュース、ファミサポよりのお知らせを掲載し、障害者福祉、子育て情報についての広報も行うほか、赤い羽根共同募金・日赤社資など募金活動についての取組みや社協・共同作業所にご寄付いただいた寄付者の掲載も行った。

(2) facebook (フェイスブック) での情報発信

京丹波町社協の事業に関する情報や町内の地域福祉活動の取組み等について、迅速に情報提供することを目的に facebook (フェイスブック) を活用した情報発信を行っている。

(3) 福祉まつり 2017

平成29年度は、2部構成とし2会場で開催した。

【第1部】

日時 H29.12.8 (金) 12:30~16:00
会場 和知ふれあいセンター アリーナ
内容
・京丹波町福祉功労者表彰 (被表彰者7名)
・講演会 (生涯現役~エアリハで美しくろう~)
講師: お笑い理学療法士 日向亭葵 氏
・ボランティアグループ紹介 (パネル展示)
・模擬店

参加者数 114名

【第2部】

日時 H29.12.17 (金) 13:30~15:30
会場 山村開発センターみずほ
内容
・地域交流ワークショップ (町内6団体協力)
・社協活動パネル展示

参加者数 183名

【成果と課題】

第1部を平日開催のためか、来場者が少なかった。

第2部では子どもが多く家族連れから高齢者まで幅広い世代の参加があり賑わっていた。

世代を超えて交流する姿が多くみられ、社協登録ボランティアグループ、町内で活躍されている事業所のワークショップを出店したことで、町内の取組みや活躍を広く知ってもらう機会になったことはイベント型の福祉まつりとしては大きな成果である。

しかし、費用対効果、他の事業の進捗状況などを検証していく中で来年度以降は隔年開催とする。



第1部 講演会



第2部 地域交流ワークショップ

2 地域で安心した生活を送るために・・・“つながり”を大切に活動の展開

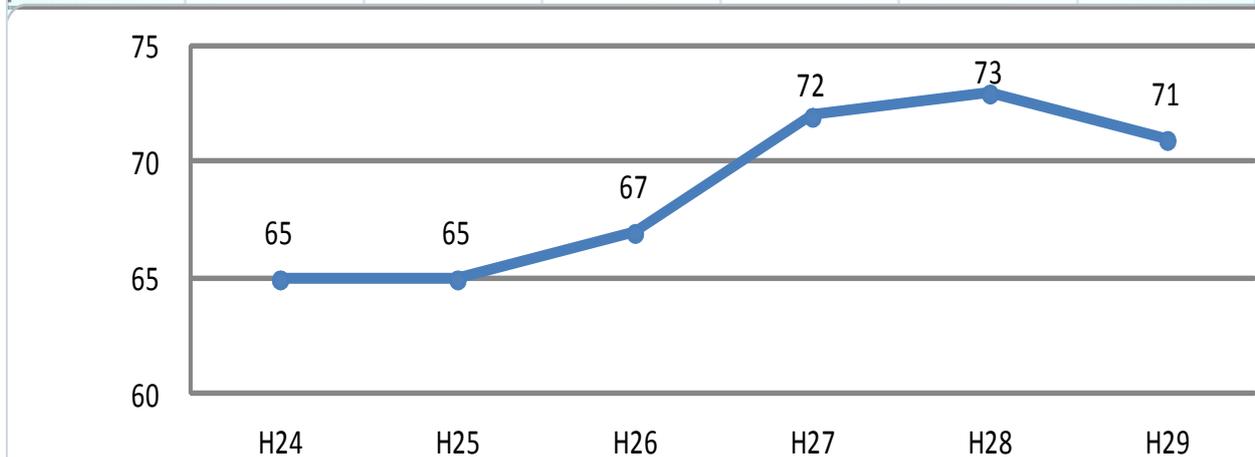
(1) ふれあいいきいきサロン活動の展開

① ふれあいいきいきサロン各地区の設置状況

丹波地区	瑞穂地区	和知地区	合計
31サロン 障害者サロン 1 広域サロン 1を含む	30サロン 広域サロン 1を含む	10サロン	71サロン
(28年度実績) 31サロン 障害者サロン 1 広域サロン 1を含む	(28年度実績) 32サロン 広域サロン 1を含む	(28年度実績) 11サロン	(28年度実績) 73サロン

※サロン設置数の推移

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
設置数	65	65	67	72	73	71



②研修・交流活動

研修・講座名	開催日・場所	内 容
平成 29 年度 京丹波町ふれあい・いき いきサロン活動者交流 研修会 参加者 69 名	H30. 3. 8 (木) 13:30～16:00 山村開発センターみずほ	<ul style="list-style-type: none"> ●「気負わなくて もう安心！ いつものレクリエーションをより楽しく！」 講師：レクリエーションコーディネーター 杉本 雅子 氏 ●レクリエーション道具展示 ●サロン助成金と まごころワイドについての説明

【成果・課題】

- ・丹波地区 パークサイドではサロンが行われていないこともあり、保健師による冬場の健康相談を出前サロンとして実施した。
- ・サロン活動者の高齢化などにより、活動が難しくなっているサロンもある。
- ・サロンが行われていない地区への出前サロンや、保健師による冬場の健康相談などを活用し、地域に向いていく形のサロンも考えていく。

(2) 小地域ボランティア高齢者支援事業

① 傾聴ボランティアによる訪問活動の展開

	丹波	瑞穂	和知	合計
活動回数	59	35	148	242
延べ訪問回数	71	24	136	231
訪問対象件数	8	15	12	35
サークル員数	7	4	8	19

【成果・課題】

- ・瑞穂地区においては、サークル員数が減少している。
- ・傾聴ボランティアからの気になること、情報などをケアマネジャーなどの専門職に伝えたりし、連携をとることができてきた。

(3) 絆ネット構築支援事業・・・京丹波町委託事業

① 絆ネットプランの目標（理念）

無縁社会や孤独死が社会問題として取り上げられる現在、少子・高齢化が進京丹波町においても「人と人のつながり」が再び注目されている。そのような中で、高齢者や障がい者、児童など、見守りを必要とする方々を地域全体で見守れる「絆ネット」を構築し、地域住民や事業者が多く関わることによって、より多くの目で見守ることにより、困りごとや異変に気づき、誰もが住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らしていけるような地域づくりを目指す。

② 実施状況

■ 京丹波町見守りネットワーク事業協力事業所登録に向けて

- 京丹波町商工会会長 野間 之暢氏に協力依頼
 - ・ 事業説明を行うとともに、協力依頼。
- 高齢者あんしんサポート企業登録事業所協力依頼
 - ・ 高齢者あんしんサポート企業に登録して頂いている事業所については、手渡しで、事業説明をするとともに、登録依頼を行う。同時に近況や、周辺の様子なども同時に聞き取りを行う。
- きょうと地域福祉活動実践交流会参加
 - ・ 今後の見守りネットワーク事業の研修で参加。地域住民のつながりの実践報告を学ぶ。
- 京都生活協同組合移動販売
 - ・ 京丹波町内で行われている移動販売の状況について、職員の方と話し合い、今後の取り組みについてなど検討しあう。

登録事業所	51事業所／3月末現在
-------	-------------

【成果・課題】

- ・ 見守りの体制が構築され、少しずつではあるが、見守り通報も入ってきている。今後も、協力事業を増やし見守りのネットワークを広げていけるように、随時呼びかけていく。今後も見守りネットワーク情報などで情報を発信し、啓発を行っていく。

3 住民参加の地域福祉推進事業

(1) 社会福祉体験学習事業の実施

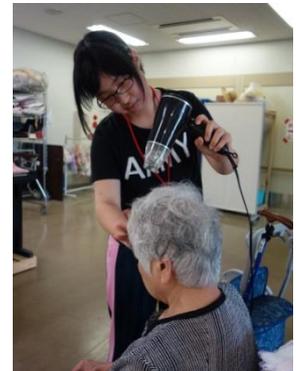
■対象 … 京丹波町在住の中学生、高校生を対象に（25年度から全町に拡大し、実施）

■内容 … 福祉施設等での体験を通じて福祉活動を学ぶことを目的に実施

開催日	内容	平28	平29	比較
8月1・2・3日	和知エンジェル（中学生）	5名	2名	-3名
8月8・9・10日	みずほ保育所（中学生）	2名	1名	-1名
8月8・9・10日	みずほ保育所（高校生）	2名	0名	-2名
8月11・12・13日	瑞穂山彦苑（高校生）	1名	0名	-1名
7月29日8月1・2日	丹波桜梅園（中学生）	1名	0名	-1名
8月8・9・10日	丹波高原荘（高校生）	2名	0名	-2名
8月1・2・3日	上豊田保育所（中学生）	1名	3名	+2名
8月4・9日	デイサービスセンターほほえみ（高校生）	0名	1名	+1名
中学生参加者合計		8名	6名	-2名
高校生参加者合計		5名	1名	-4名
参加者合計		13名	7名	-6名

【成果・課題】

- ・保育所での希望者が多く、受け入れ人数の関係でお断りした生徒が2名あった。
- ・高齢者福祉・障害がい者福祉への希望者が少ないことについて推進会議の中でも意見が出た。その中で、それぞれ体験日数を1日からでも受け入れ可能としたり、生徒の送迎に関しても対応するという事業所もあったが、それでも参加には結びつかなかった。
- ・中高生の福祉離れを感じることもあり、福祉に触れ合うきっかけ作りとして、小・中学生対象の「キッズボランティア」を取り組むきっかけとなった。



(2) デイサービスキッズボランティア体験学習の実施

■対象…町内小学生・中学生

■内容…中高生の福祉体験学習を実施する中で、子どもたちの福祉離れを感じることもあり、小学生からの福祉に触れ合うきっかけ作りの場として実施しました。

【夏休み】

期間 H29.8.7（月）～H29.8.26（土） ※日曜日と8.14～8.19までは除く。

時間 13：30～16：00

参加者 瑞穂小学校…14名 和知小学校…1名

延べ人数 62名

8/7(月)	8/8(火)	8/9(水)	8/10(木)	8/11(金)	8/12(土)
4名	4名	5名	6名	6名	5名
8/21(月)	8/22(火)	8/23(水)	8/24(木)	8/25(金)	8/26(土)
8名	3名	5名	7名	5名	4名

【春休み】

期 間 H30.3.26 (月)～H30.4.7 (土) ※日曜日を除く

時 間 13:30～16:00

参加者 瑞穂小学校…9名 丹波ひかり小学校…2名 竹野小学校…1名 延べ人数 39名

3/26(月)	3/27(火)	3/28(水)	3/29(木)	3/30(金)	3/31(土)
4名	2名	2名	3名	5名	5名
4/2(月)	4/3(火)	4/4(水)	4/5(木)	4/6(金)	4/7(土)
3名	2名	3名	2名	4名	4名

【成果・課題】

- ・取り組みを始めて1年が経過する中で継続して参加してくれている小学生もいる。また、ほほえみデイサービスセンターでの取り組みであるが、和知地区、丹波地区からの参加もあった。
- ・利用者も、キッズボランティアを楽しみにされる方が多く、普段は見られない表情が見られた。
- ・キッズボランティアに参加していた中学生が高校生となり、長期休暇中にボランティアとして活動してくれた。
- ・保護者送迎としている取り組みであるため、参加者も瑞穂地区の小学生が多い。今後、他地区の福祉施設にも協力を呼びかけ、この取り組みを広げていきたい。



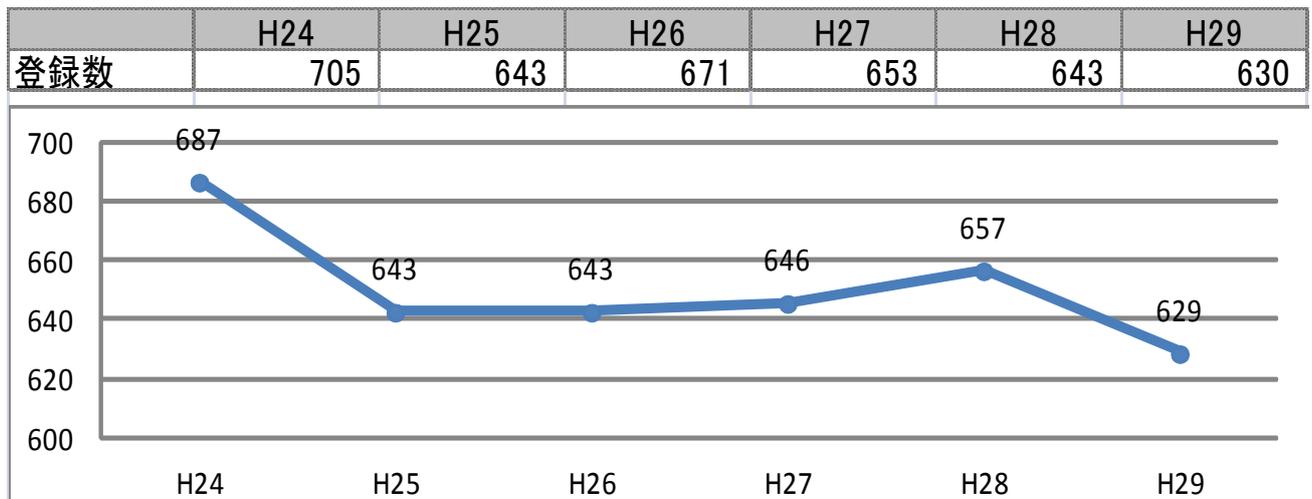
デイサービスセンターでのキッズボランティアの様子

【ボランティア振興事業】

1 ボランティアバンク登録状況

	性別	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
丹波	男	7	0	4	2	15	19	47
	女	8	6	9	19	83	127	252
	計	15	10	13	21	98	146	299
	28年	11	10	11	22	106	128	288
瑞穂	男	0	1	1	0	11	8	21
	女	1	0	4	13	65	63	146
	計	1	1	5	13	76	71	167
	28年	1	2	3	13	94	65	178
和知	男	0	0	0	0	7	15	22
	女	0	0	0	12	19	111	142
	計	0	0	0	12	26	126	164
	28年	0	0	4	14	27	132	177
合計		16	11	22	46	200	343	630
28年度		12	12	18	49	227	325	643
比較		133.3%	91.7%	122.2%	93.9%	88.1%	105.5%	98.0%

※ボランティアバンク登録者数の推移（単位：人）



2 ボランティア活動状況報告

(1) ボランティアグループ活動報告

①丹波地区

NO	ボランティアグループ名	年間活動回数	年間出勤人数
1	要約筆記ボランティア「イヤフレンズ」	52回	154名
2	朗読ボランティア「ともしび」	34回	225名
3	モンキーズ&ハッピーサークル	9回	87名
4	演芸ボランティア「丹波せせらぎ会」	27回	80名
5	演芸ボランティア「民謡みやび会」	10回	144名
6	演芸ボランティア「瑞舟会」	48回	144名

7	演芸ボランティア「苑の会」	12回	36名
8	演芸ボランティア「すみれ会」	5回	25名
9	お誕生カードボランティア「すずらん」	2回	8名
10	絵手紙ボランティア	12回	72名
11	くらしの応援ボランティア「ひらめき会」	13回	46名
12	子育てボランティア「さくらんぼ」	11回	259名
13	保育ボランティア	29回	49名
14	美容ボランティア「愛（めぐみ）の会」	12回	60名
15	竹野ほほえみの会	48回	305名
16	蒲生ボランティアグループ	9回	228名
17	豊田あじさいの会	73回	260名
18	グリーンハイツすみれ会	11回	75名
19	グリーンハイツなごみ会	11回	224名
20	富田萩の会	9回	276名
21	傾聴ボランティア「うさぎの耳」	71回	132名
22	アロハフラピカケ	39回	616名
23	遊び広場もこもこ	20回	578名
24	和太鼓「えん」	46回	1,135名
25	和太鼓「結輪」	43回	172名
丹波支所活動計（イ）		656回	5,390名

②瑞穂地区

NO	ボランティアグループ名	年間活動回数	年間出勤人数
1	収集ボランティア「めぐみ」	6回	32名
2	要約筆記ボランティア「ささやき」	14回	31名
3	朗読ボランティア「あかり」	13回	56名
4	デイサービス介助ボランティア「あじさい」	509回	529名
5	暮らしの応援ボラ手作り介護用品「コスモス」	17回	53名
6	暮らしの応援ボラ「ダイナミックス」	19回	88名
7	保育ボランティア	13回	13名
8	絵手紙ボランティア	10回	53名
9	押し花ボランティア「花かご」	19回	77名
10	配食ボランティア	313回	457名
11	傾聴ボランティア「なかよし会」	35回	75名
12	手話サークル「いちょう」	22回	120名
13	京丹波スリーA	22回	122名
14	くるみの会	68回	194名
15	ハッピーマロン	5回	26名
16	コーラスカナリア	28回	420名
瑞穂支所活動計（ロ）		1,111回	2,346名

③和知地区

NO	ボランティアグループ名	年間活動回数	年間出勤人数
1	要約筆記サークル「くさぶえ」	72回	211名
2	朗読ボランティア「こだま会」	12回	79名

3	ガイドヘルパー「みちづれ」	82回	39名
4	十三の会	80回	148名
5	七八会	38回	64名
6	みんなで手をつなごう会	11回	141名
7	大迫グループ	22回	67名
8	虹の会	148回	161名
9	お誕生カードづくりボランティア「天花」	10回	71名
10	手芸ボランティア「モチーフ」	11回	41名
11	ふれあい給食サービス「調理ボランティア」	22回	124名
12	ふれあい給食サービス「配食ボランティア」	341回	642名
13	彩いろグループ	11回	110名
14	才原グループ「ふきのとう」	3回	6名
和知支所活動計（ハ）		863回	1,904名
総 合 計（イ+ロ+ハ）		2,630回	9,640名

（2）個人ボランティア活動報告

活 動 内 容	活動回数	活動者数
京丹波町身体障害者福祉会体育大会のボランティア支援	1回	8名
瑞穂山彦苑夏祭りボランティア	1回	9名
全京都車イス駅伝競走大会ボランティア	1回	2名
ふれあい給食「かけはし弁当」帯び絵原画書き	20回	2名
ふれあい給食「かけはし弁当」帯び絵名前書き	20回	20名
京たんば花火大会清掃ボランティア	1回	12名
合 計	44回	53名

3 ボランティア研修・養成講座・交流会の開催

担当職員向け 外部会議・・・・・・8回

町民向け 交流会、講座・・・・2回

（朗読ボランティア「ともしび」とリスナーとの交流会、傾聴講座）

【成果・課題】

- ・担当職員が参加した外部会議では、京都府下の市町村社協担当職員向けに「(ボランティア) 入り口デザインプロジェクト」として題して、ボランティアの“担い手不足”、“新たな広報”など市町村を超えて共通した課題を検討していく取組みで、担当者が抱える悩みや新たな考えの発見・共有に繋がった。

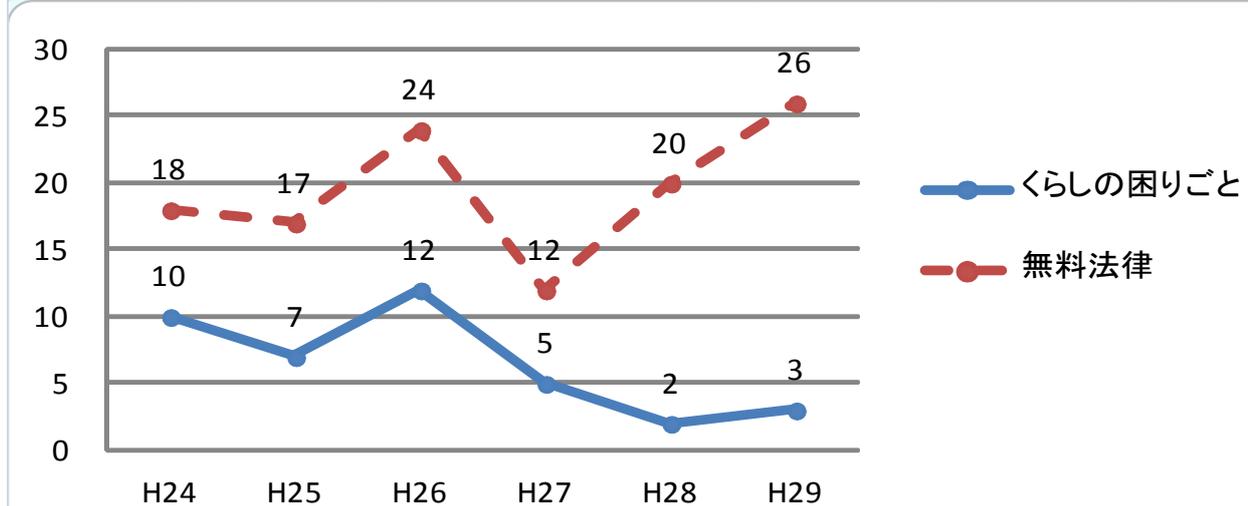
【厚生福祉事業】

1 心配ごと相談事業

※来談者の推移（「心配ごと相談」はH29より「くらしの困りごと相談」に名称変更。）

（単位：人）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
くらしの困りごと	10	7	12	5	2	3
無料法律	18	17	24	12	20	26



くらしの困りごと相談	開催日	来談者	無料法律相談	開催日	来談者
丹波	5月1日	1	瑞穂	4月3日	0
和知	5月22日	0	丹波	5月9日	3
瑞穂	6月5日	0	和知	7月3日	3
和知	7月3日	0	瑞穂	8月7日	4
丹波	7月24日	0	丹波	10月2日	2
瑞穂	9月4日	0	和知	11月6日	3
丹波	10月2日	0	丹波	12月4日	4
和知	11月6日	0	和知	2月5日	2
瑞穂	11月27日	2	瑞穂	3月5日	5
丹波	12月4日	0			
瑞穂	1月9日	0			
和知	2月5日	0			
合計		3件	合計		26件
28年度実績合計		2件	28年度実績合計		20件

【成果・課題】

- ・くらしの困りごと相談から法律相談、専門相談窓口につながっている。
- ・生活困窮者自立相談支援事業と連携し、相談者に求人状況の説明を行った。
- ・和知地区に在住されている方からの相談が少ないため、小地域の拠点で出張型相談所の開設について検討していく。

2 福祉資金貸付事業

(1) 新規貸付状況

	丹波地区	瑞穂地区	和知地区	合計
生活福祉資金貸付	0	0	1	1
くらしの資金貸付	1	1	0	2

(2) 担当者会議・研修の受講状況

研 修 名	開 催 日	内 容
平成29年度第1回生活福祉資金貸付事業運営会議	H29.6.27	貸付運用方針・償還促進方針の変更・改正と償還促進方針における中長期滞納の取組み方についての会議
平成29年度第1回生活福祉資金貸付事業担当職員研修（償還研修）	H29.7.20	生活福祉資金の償還に関しての府社協方針の確認と事例検討などを通じた償還促進に関する研修
平成29年度第2回生活福祉資金貸付事業担当職員会議（教育研修）	H29.8.23	教育支援資金の取り扱いについて、学生支援機構（JSSO）との併給が可能となり、それに関する変更点について確認と検討を行った。

【成果・課題】

低所得者や障害者・高齢者が属する世帯を対象に、その世帯の状況・必要性に応じて無利子または低利で資金を貸し付ける制度で、今年度は、暮らしの資金2件（エアコン購入費、車の修理費）と生活福祉資金1件（教育支援資金）の貸付を行った。また、その貸付の相談に伴い、貸付委員会の開催についても行った。

3 総合相談事業

(1) 相談受付内容

金銭関係	介護等相談	書類等手続き	その他	合計
33	12	1	7	53

(2) 相談対応結果

他機関紹介	多職種連携対応	社協事業対応	その他	合計
13	19	15	6	53

【成果・課題】

相談支援係として、地域のさまざまな相談対応を行っている。金銭関係の相談が最も多く、次いで介護の悩みなどの相談、書類等の手続きに関する相談が多く入った。

その他にも様々な相談が入り、対応として、行政（保健福祉課（室）・包括支援センター）・ケアマネジャー・医療機関など多職種で連携して対応を行ったケースが最も多かった。次いで地域権利擁護事業やケアマネジャー、貸付事業など社協事業での対応が多く、行政関係機関や弁護士等専門職などの相談窓口を紹介する他機関へのつなぎを行う対応も多かった。

その他に自力で解決されたケースや問合せのみで完結したケースなどもあった。

昨年度に相談を受けた方について、その後の経過を確認した数日後に、その対象者の安否が不明と連絡が入った。結果、自宅で亡くなって（孤独死）おられたが、このように地道な相談活動とその後の経過の確認が最短での発見につながった。

【福祉関係組織活動支援】

1 日赤社員増強運動

項目	丹波	瑞穂	和知	合計
社資協力募金額	707,050円	552,450円	479,731円	1,739,231円

2 共同募金実績

(1) 赤い羽根共同募金運動 ⇒ 10月を運動月間として住民のみなさんに協力依頼

項目	内容	合計	
募金額	平成29年度募金額	3,189,961円	
配分総額	平成28年度募金の約8割	2,553,698円	
配分内訳	①啓発活動	広報ほほえみ発行	678,441円
	②高齢者福祉事業	町老連助成・一人ぐらし高齢者交流等	390,000円
	③障害児・者福祉活動	町身体障害者福祉会助成等	130,000円
	④母子・父子福祉活動	町母子寡婦福祉会助成等	130,000円
	⑤児童青少年福祉活動	町内小中学校福祉活動助成	240,000円
	⑥地域福祉活動	公募助成・かがやき活動・福祉まつり	910,840円
	⑦防災・災害対策事業	災害時用備品の購入	74,417円
合計		2,553,698円	

(2) 歳末たすけあい募金 ⇒ 12月を運動月間として住民のみなさんに協力依頼

項目	内容	合計	
募金額	平成29年度に寄せられた募金額	1,910,010円	
共同募金会事務費	募金資材、広報、委員会等費用	152,000円	
未交付配分金	京都府共同募金会へ繰越金を送金	273,910円	
配分総額	平成29年度に寄せられた募金の約9割	1,484,100円	
配分内訳	①在宅援助活動	見舞・激励金の配布	957,000円
	②在宅サービス事業	年末お掃除隊、買物支援、介護用防水シート配布	427,100円
	③共同作業所支援	共同作業所交流会支援	100,000円
合計		1,487,100円	

【成果・課題】

配分事業では3年目を迎えた公募助成事業の申請団体が年々増えています。今後どのような活動が地域に求められているのか、対象となる団体の基準など十分検討したいと考えています。

また歳末配分事業では今年新たに在宅高齢者支援として年末お掃除隊事業に取り組みました。

募金活動では今年3月、新しい募金方法として、募金ができる自動販売機を道の駅「瑞穂の里さらびき」に設置いただきました。町内では現在3台の自動販売機が設置されています。より身近にできる募金として広報していきます。



3 京丹波町老人クラブ連合会

京丹波町老人クラブ連合会と丹波・瑞穂・和知それぞれの支部活動を支援するため、事務局機能を担っている。

【災害支援活動と災害ボランティアセンター活動報告】

1 支援活動

○九州北部豪雨先遣隊派遣

京都府災害ボランティアセンターとしての支援策を検討するために、初動支援チームに登録している本会職員1名が他の団体3名と共に、福岡県朝倉市を中心に先遣隊として現地確認・情報収集を行った。

派遣日：H29. 7. 12～H29. 7. 13

派遣先：福岡県社会福祉協議会、添田町災害ボランティアセンター、朝倉市災害ボランティアセンター、大分県日田市災害ボランティアセンター

派遣者：デイサービスセンター長 桐野正則（京都府災害ボランティアセンター初動支援チーム登録者）
他3名

2 研修・講座

担当職員向け 研修・講座・・・・・・6回 外部会議・・・・・・1回

町民向け 広報（福祉まつり）・・1回 講座・・・・・・1回

平成 29 年度京丹波町社協福祉まつり (災害ボラセンコーナーでのブース展示)	H29. 12. 17	京丹波町社協福祉まつりで災害ボラセンコーナーを作り、災害支援活動で使用する資機材や非常持ち出し品、非常食の展示を行った。
平成 29 年度 京丹波町災害ボランティアセンター町民講座	H30. 3. 17	阪神淡路大震災当時、神戸市職員だった浜氏の経験を元に教材に。多くの場面で判断を迷う、「あれで良かった」「他のやり方があったのでは?」といった状況において、災害対応ゲーム(クロスロード)が生まれる。グループになり、Yes、No を選び選んだ理由を説明する。→お互いの意見を聞きあう、新たな意見に驚く、認め合う、共感する効果を生む。

3 協力活動

日本赤十字社第4ブロック（近畿ブロック）が実施する訓練会場が京都府立丹波自然運動公園となり、広域災害を想定した災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施協力を行った。

・合同災害訓練

日本赤十字社が主催、京丹波町社協と共に、京都府社協や赤十字社レスキューチェーン支部がある福知山市社協、亀岡市社協、宇治市社協も合同訓練に参画した。

日 時：H29. 6. 17（土）9：00～17：00

場 所：京都府立丹波自然運動公園

内 容：災害ボランティアセンター運営訓練

・事前打合せ会議①

日 時：H29. 4. 17（火）19：00～21：30

場 所：ガレリア亀岡

内 容：①日赤の活動について、②訓練趣旨、③今後の調整

・事前打合せ会議②

日 時：H29. 5. 15（火）19：00～21：30

場 所：ガレリア亀岡

内 容：①訓練趣旨、②訓練内容、③役割分担

・事前打合せ会議③

日 時：H29.5.30（火）19：00～21：30

場 所：ガレリア亀岡

内 容：①訓練趣旨、②訓練内容、③役割分担

・事後検証会

日 時：H29.7.3（月）19：00～21：00

場 所：ガレリア亀岡

内 容：訓練の成果及び明らかになった課題の共有

【成果・課題】

京丹波町災害ボランティアセンターは、平成26年度に締結した「災害時におけるボランティア活動等における協定書」に基づき、災害発生時において、京丹波町の要請により災害ボランティアセンターの設置・運営を行うことが主要な取組みである。（協定締結型災害ボランティアセンター）

平時においては、災害時に備え資機材の整備・管理や研修・訓練の取組みを行うこととなっている。

平成29年度においては、幸いにして町内で災害が発生しなかったため、災害ボランティアセンターの立ち上げは行わなかった。そのため、平時の取組みとして、資機材の整備（センター運営で使用するホワイトボード×3台）と災害ボランティアセンター町民講座を行った。



6/17 日本赤十字社第4ブロックの訓練に地元社協として参加（丹波自然運動公園）



3/17 京丹波町災害ボランティアセンター町民講座を開催（山村開発センターみずほ）